

2026 | 神戸市 都市づくりの  
マスタープラン

資料編

# 2026 | 神戸市 都市づくりの マスタープラン

このマスタープランは、多くの市民・関係者とともに描いた  
2035年の神戸のありたい姿を実現するために、  
都市づくりの基本的な考え方や方針、  
具体的な取り組みをまとめたものです。  
人口減少や社会構造の変化が進む中であっても、  
このマスタープランをさまざまな立場の人々と共有し、  
共通の目標のもと、多種多様な方法で都市づくりを進めていきます。

## ビジョン編

都市づくりの基本的な考え方や方針

## アクション編

都市づくりの具体的な取り組み

## 資料編

計画の位置づけや神戸市を取り巻く状況  
居住・都市機能の方針

### 資料編

#### 1▶ 位置づけと役割

1-1 区域区分の決定の有無	P02
----------------	-----

1-2 対象範囲	P02
----------	-----

1-3 目標年次	P02
----------	-----

#### 2▶ 神戸市を取り巻く状況

2-1 社会経済情勢の変化	P04
---------------	-----

2-2 神戸市の現況	P06
------------	-----

#### 3▶ 居住・都市機能の方針関連

P40



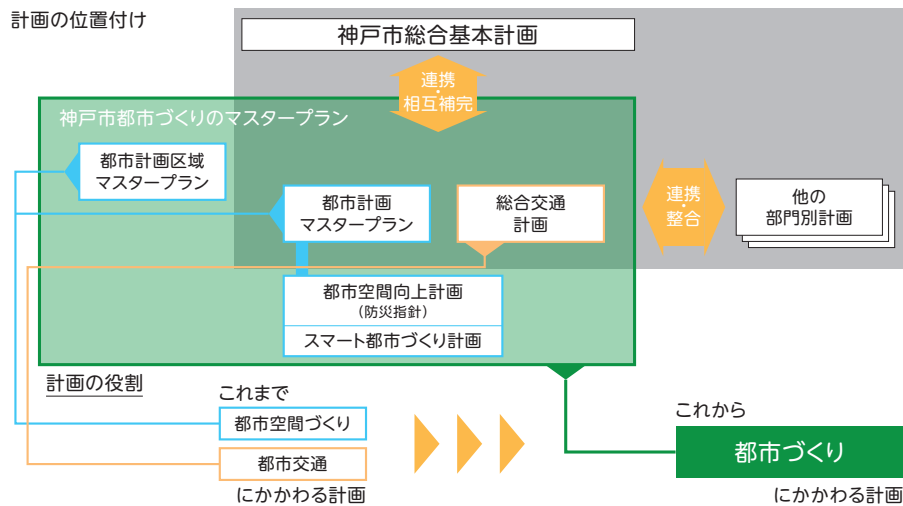
# 1

## 位置づけと役割

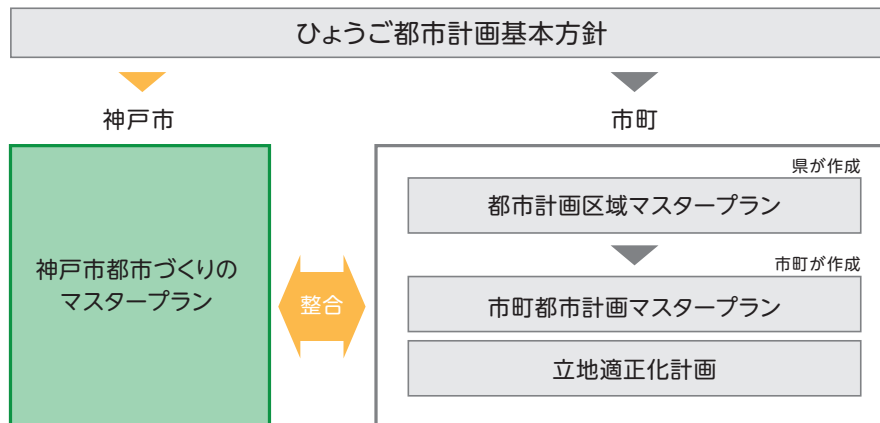
## 1-1 都市づくりの総合的な計画

本市においてこれまで策定してきた、都市計画法に基づく「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（神戸都市計画区域マスタープラン）」「市の都市計画に関する基本的な方針（神戸市都市計画マスタープラン）」、都市再生特別措置法に基づく「神戸市都市空間向上計画（立地適正化計画の内容を含む）」、「神戸スマート都市づくり計画」および「神戸市総合交通計画」を統合し、都市づくりに関する総合的な計画として「神戸市都市づくりのマスタープラン」を策定しました。

また、市の上位計画である「神戸市総合基本計画」と連携・相互補完する関係であり、「都市づくり」に関わる部門別計画として、他の部門別計画とも連携・整合しています。



(参考)兵庫県や各市町の都市計画に関するマスタープラン




## 1-2 対象範囲

計画の対象範囲は神戸都市計画区域（神戸市全域）とします。

## 1-3 目標年次

概ね50年先を見据えながら、上位計画である神戸市基本計画の目標年次と同じ「2035年（令和17年）」を目標年次とします。



# 2 神戸市を取り巻く 状況

## 2-1 社会経済情勢の変化



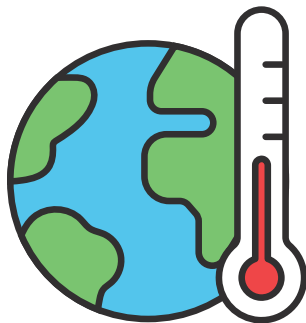
### ▶ 人口減少、少子高齢化のさらなる進行

日本全体では、晩婚化や未婚化、医療技術の発達などによる寿命の延伸により、少子高齢化が進展し、2008年の1億2,808万人をピークに人口減少が始まり、神戸市においても同様の傾向によって2011年の約154万人をピークに人口減少が続いています。



### ▶ 価値観・ライフスタイルの多様化

コロナ禍を契機とし、デジタル化の進展も相まって、テレワークの急速な普及、自宅周辺での活動時間の増加など、人々の生活様式は大きく変化しており、これに伴い、ワークライフバランスの重視など、「働き方」や「暮らし方」に対する意識や価値観が変化・多様化しています。



### ▶ 気候変動のさらなる進行

地球温暖化により、世界的な平均気温の上昇や雪氷の融解、海面水位の上昇が観測されており、日本においても平均気温の上昇、大雨、台風などによる被害、農作物や生態系への影響などが観測されています。

神戸市においても、世界や日本の気温上昇と同様に、長期的（100年当たり）には、年平均気温は1.4℃、年平均日最高気温は1.0℃、年平均日最低気温は1.7℃の割合でそれぞれ上昇しています。

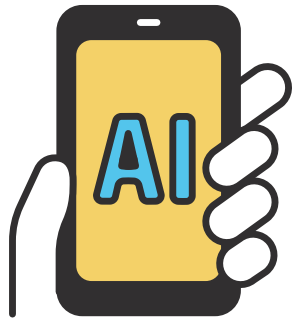


### ▶ 安全・安心に対する意識の高まり

この100年で気象災害の激甚化・頻発化が目に見える形で進んできており、地球温暖化の進行に伴って、この傾向が続くことが見込まれています。

また、南海トラフ地震の30年以内の発生確率について、時間の経過とともに地震の切迫性は高まっています。

さらに、感染症やサイバー攻撃、テロなど、あらゆる災害リスクと正面から向き合い、災害に備え、危機管理に万全を期すことが求められています。



### 技術革新・DX

AIを活用した多様なデジタルサービスは生活に深く浸透しつつあり、メタバース、ロボティクス、自動運転技術なども、地域活性化、防災などのさまざまな社会的・経済的課題解決に貢献することが期待されています。

まちづくりにおいても、これらのデジタル技術を取り入れつつ、従来のまちづくりの仕組みそのものを変革し、新たな価値創出や課題解決を実現することが求められます。



### さらなるグローバル化の進展

日本全体では、2024年の訪日外国人旅行者数や旅行消費額が過去最高となり、今後、より一層の誘客の推進に向けた取り組みが進められています。

神戸市においては、2025年4月には、国際チャーター便の運用開始や国内便の発着枠が拡大され、2030年頃には、国際定期便の運用が開始されます。国際定期航路を持つ神戸港に加え、神戸空港が国際空港となる「第2の開港」により、観光やビジネスで海外から多くの人々が神戸を訪れるとともに、神戸から人材や情報のパイプが世界とつながることになります。

産業や学術機関の集積を活かして新たな価値を創造・循環し、世界へ貢献する都市として、グローバル社会で、経済・文化的な存在感を高めていくことが求められます。



### 周辺都市との関係性

神戸市周辺においては、大阪・夢洲における大阪・関西万博が開催されたほか、IRの整備が進められており、大阪ベイエリアは、今後より一層の活性化が期待されています。また、将来的には、大阪までリニア中央新幹線の延伸が計画されており、交流人口の増加や経済波及効果の増大、新たなライフスタイルやワークスタイルの実現が期待されています。

他方、人口減少と少子高齢化を背景に、都市機能の分担・連携など、市域を越える広域的な取り組みの重要性が増していることから、近隣の周辺都市と連携した都市機能や行政サービスの維持・提供など、圏域全体で魅力あふれる地域づくりを進めていくことが求められます。

さらに、神戸市は周辺都市の働く場や活動の場などを提供していることから、本計画に基づきそのような場の価値を高める取り組みを進めることによって、周辺都市の魅力向上にもつながることが期待されています。

## 2-2 神戸市の現況

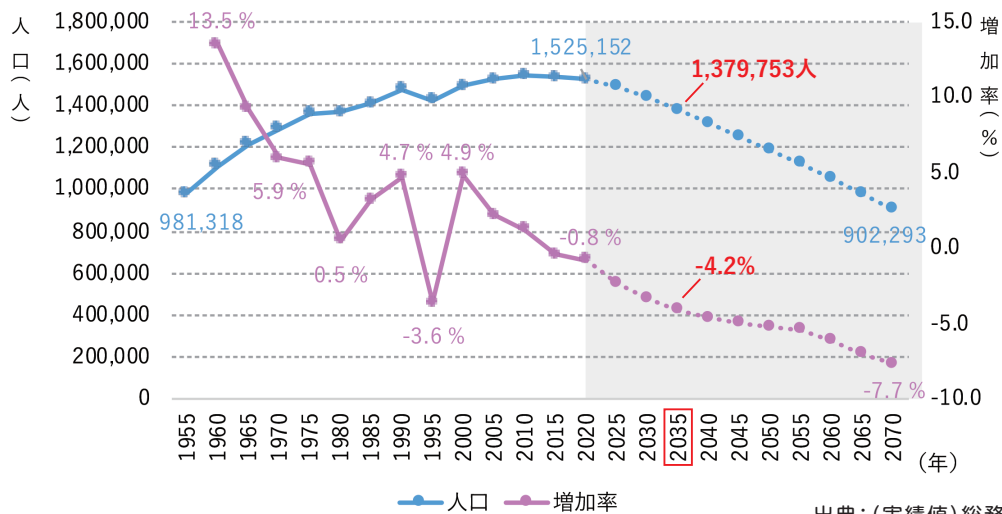
### 1 人口

#### ① 人口推移と将来推計人口

神戸市では、2011年から人口減少が始まっており、全国と同様に人口減少が進行しつつあります。

神戸人口ビジョン【改定版】における推計値では、神戸市の人口は、2020年の約152万人から、2035年に約138万人に、2070年に約90万人まで減少し、約62万人減（約41%減）と推計されています。

#### ■人口推移と将来推計人口



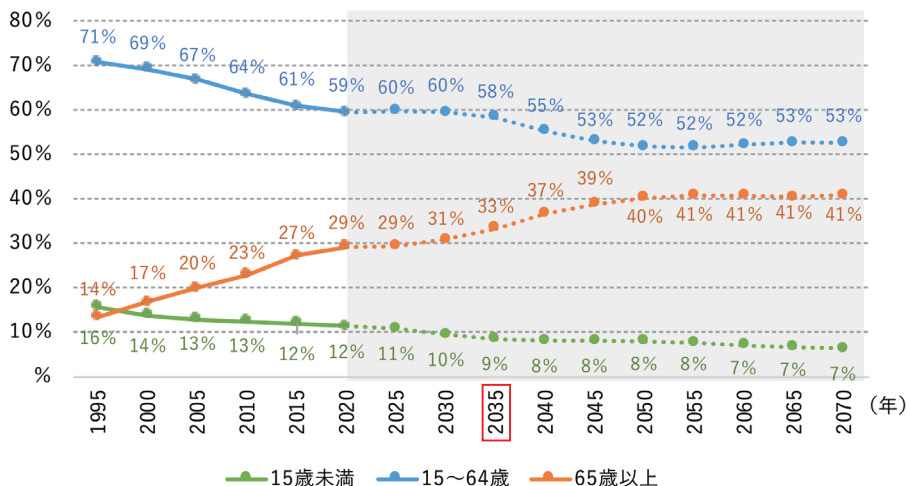
出典：(実績値)総務省統計局 国勢調査  
(推計値)神戸人口ビジョン【改訂版】

#### ② 年齢階層別

高齢者人口（65歳以上）の割合は1995年から増加傾向である一方で、生産年齢人口（15～64歳）の割合は減少傾向であり、今後もその傾向が続くと推計されています。

2020年時点では、現役世代2人で高齢者1人を支えている計算となりますが、1人当たりの負担の増加が続き、2070年にはほぼ1人で1人を支える形になることが見込まれています。

#### ■年齢構成の推移



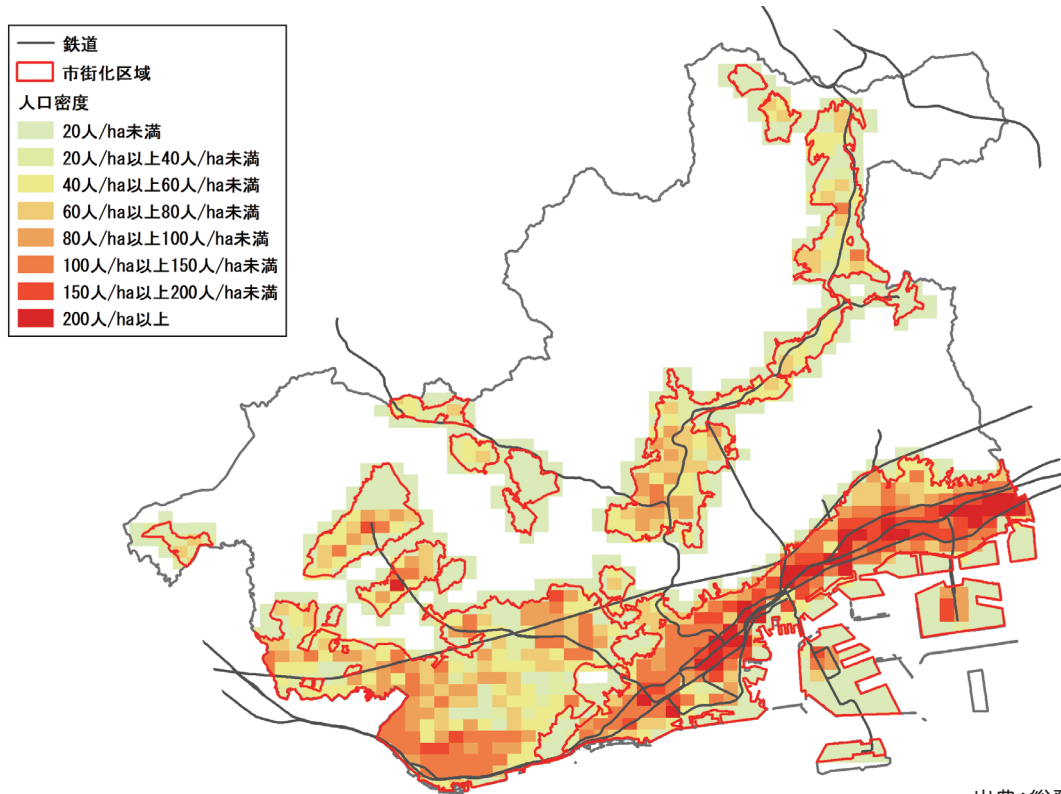
出典：(実績値)総務省統計局 国勢調査  
(推計値)神戸人口ビジョン【改訂版】

### 3 人口密度

2020年における人口密度分布をみると、既成市街地を中心に人口密度が高くなっています。

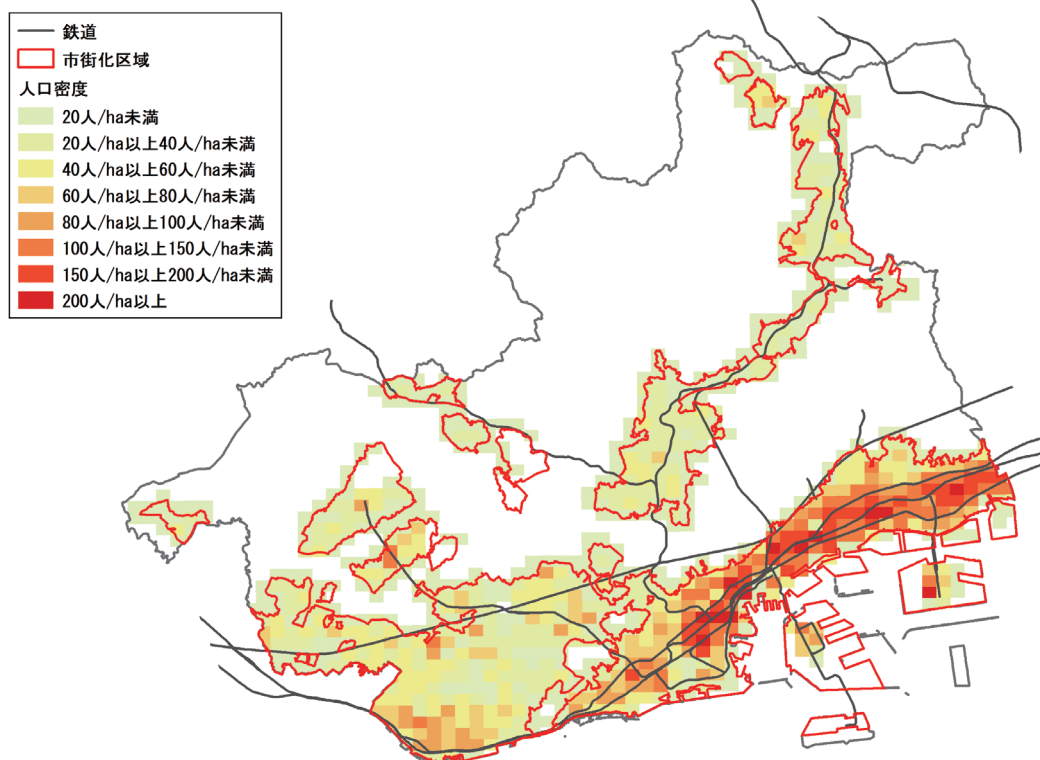
一方、将来（2070年推計）においては、全体的に密度が低下しており、既成市街地および鉄道沿線地域は一定の人口密度が保たれているものの、鉄道から離れた地域では低くなることが予測されています。

#### ■人口密度(2020年)



出典：総務省統計局 国勢調査

#### ■人口密度(2070年)



出典：国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口(R6国政局推計)

## 4 年齢階層別人口割合

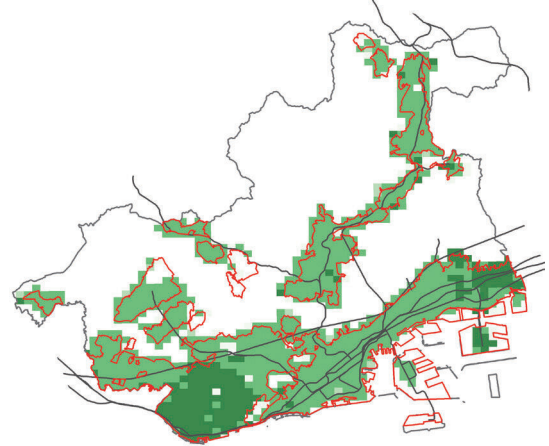
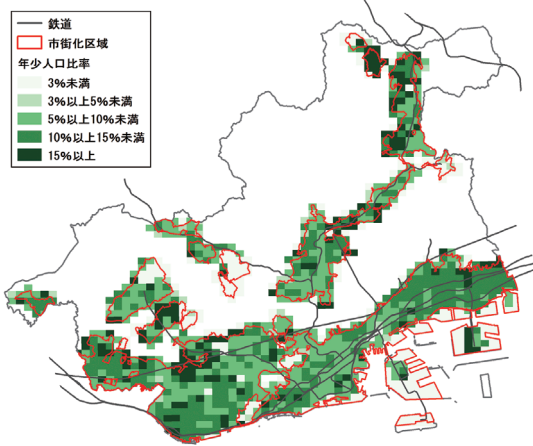
年少人口（15歳未満）および生産年齢人口の割合は、現況（2020年）と将来（2070年推計）で比較すると、いずれも市全体で減少すると予測されています。

一方で、高齢者人口の割合は市全体で増加傾向にあり、40%以上の割合が比較的多くなると予測されています。

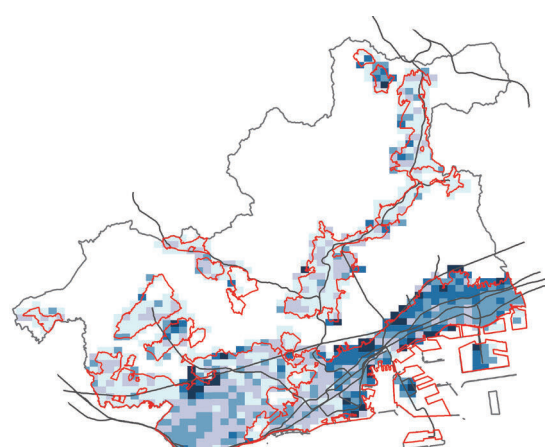
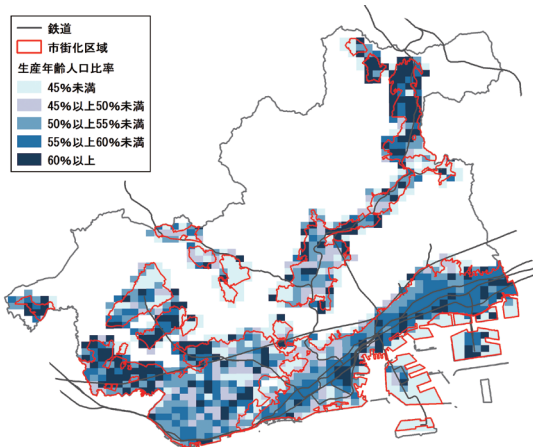
2020年

2070年

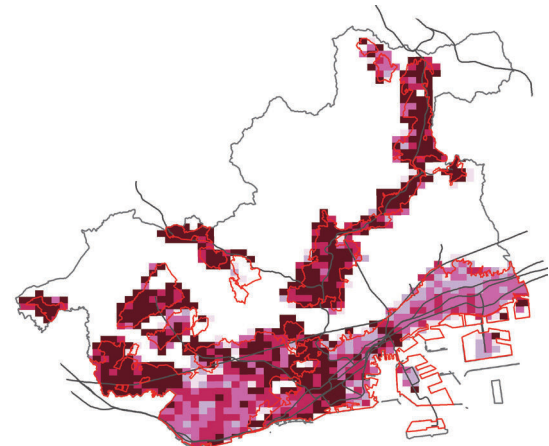
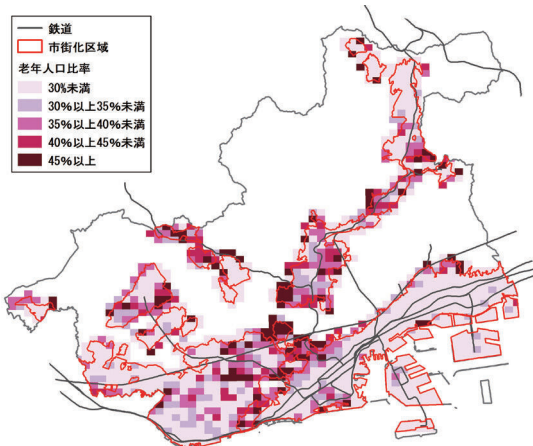
### ■年少人口（15歳未満）の割合



### ■生産年齢人口（15歳以上64歳未満）の割合



### ■老年人口（65歳以上）の割合



出典：(実績値)総務省統計局 国勢調査  
 (推計値)国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口(R6国政局推計)

## 5 人口動態

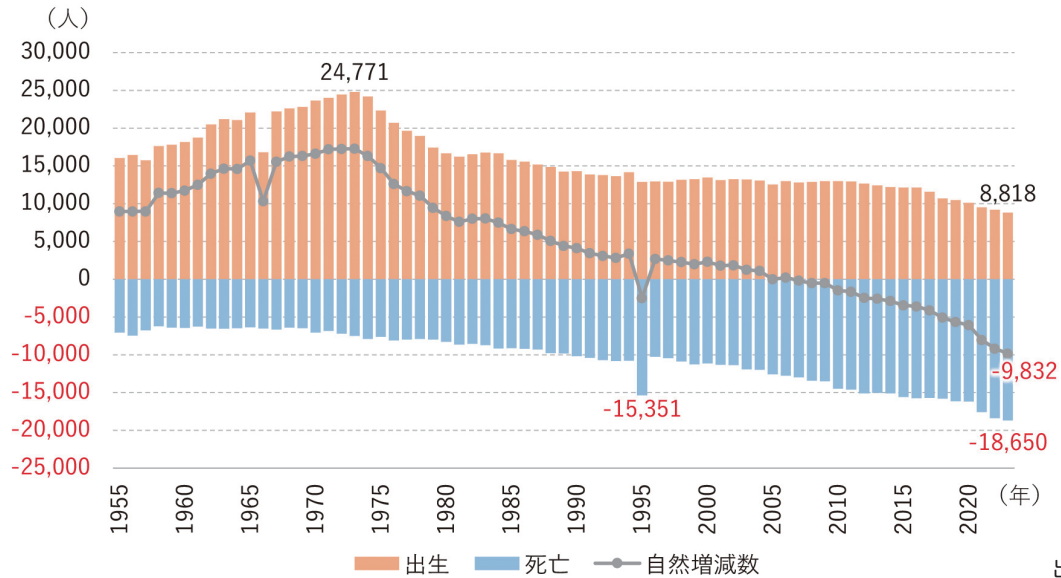
### 1. 自然増減の推移

出生数は、1973年（24,771人）をピークに減少に転じ、2023年は8,818人となっています。

死亡数は増加傾向が続いており、2023年には18,650人となっています。

自然増減数は2007年にマイナスに転じて以降、減少傾向が続いており、2023年は9,832人のマイナスとなっています。

#### ■自然動態(出生率、死亡率、増減数)

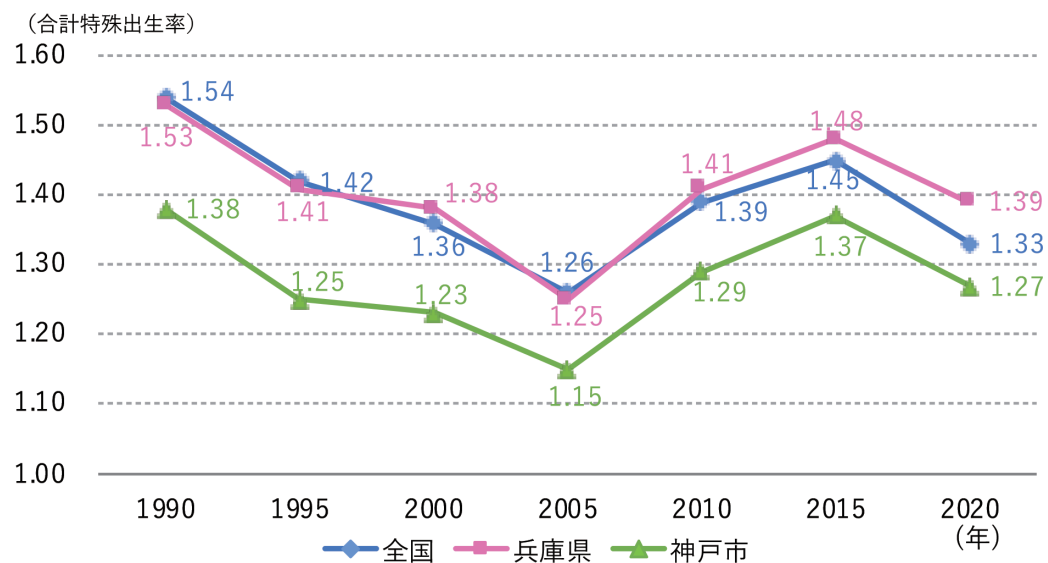


出典：神戸市統計書

#### (参考)合計特殊出生率の推移

推移をみると、女性人口（15歳～49歳）の減少に伴い低下傾向にありましたが、2005年以降は一旦上昇に転じ、2015年には1.37となっています。しかし、2015年以降はまた低下傾向になっています。また、合計特殊出生率は全国や兵庫県よりも低くなっています。

#### ■合計特殊出生率の推移

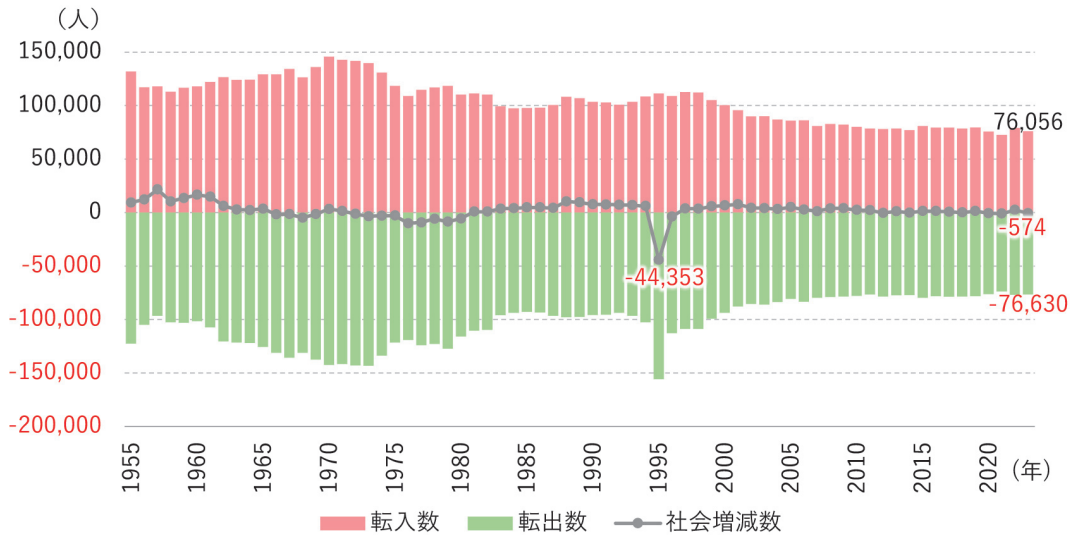


出典：厚生労働省(兵庫県ホームページより)

## 2. 社会増減の推移

阪神・淡路大震災が発生した1995年は4万人を超える転出超過となりました。その後は転入・転出はほぼ同程度の割合で推移しているものの、2023年は574人の転出超過となっています。

### ■社会動態(転入数、転出数、増減数)

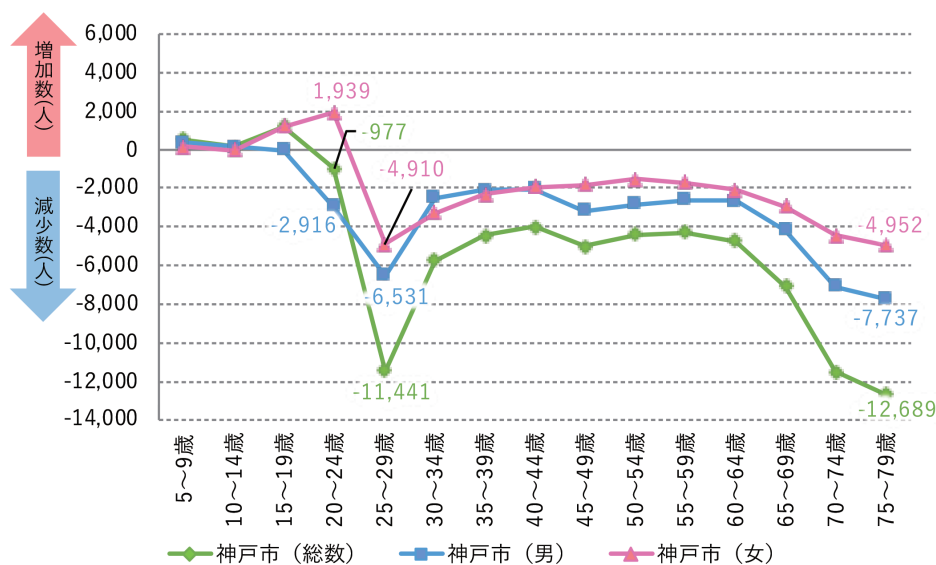


出典：神戸市統計書

### (参考) コーホート世代別の転出入の状況

神戸市の人口動態の特徴として、大学などへの入学時期にあたる15～19歳のコーホート人口が増加する一方、大学や短大、専門学校卒業者の就職時期にあたる20～24歳、25～29歳のコーホート人口は大きく減少する傾向があります。

### ■コーホート人口増減数(2015年-2020年)

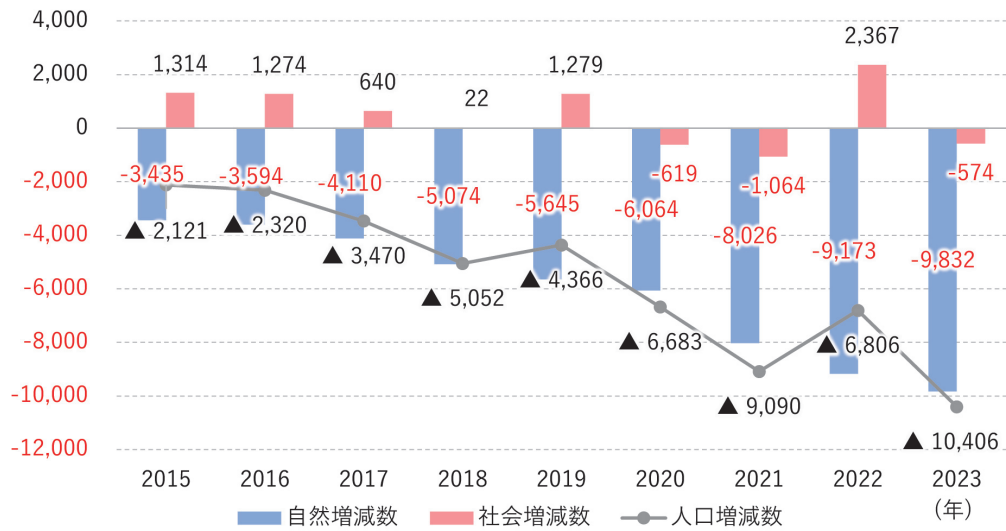


出典：総務省統計局 国勢調査

### 3. 人口増減

人口増減数（自然増減数+社会増減数）の内訳をみると、自然増減数が社会増減数に比べ非常に大きくなっているため、人口全体で見ると大幅にマイナスになっています。

#### ■自然・社会増減数と人口増減数の推移



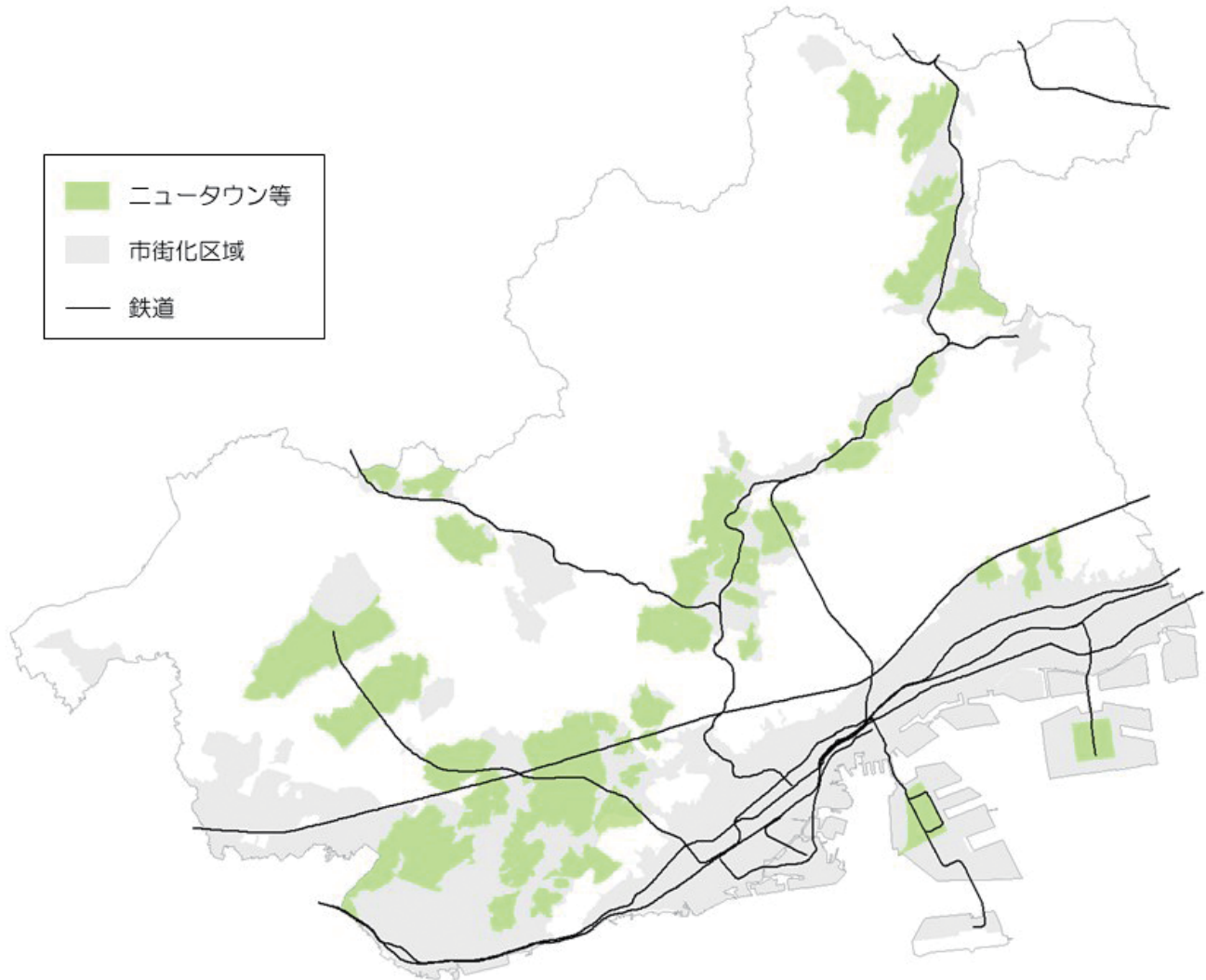
出典：神戸市統計書

## 6 人口地域特性等

神戸のまちは、古くから住宅地が構成されている既成市街地、鉄道駅を中心に広がったニュータウン等\*などで構成されています。

ニュータウン等の面積は約6,411haで、市街化区域（20,364ha）の約1/3にあたります。人口も477,476人（2020年国勢調査）で、市全体の約1/3となっています。

### ■ニュータウン等の位置図



#### ※ニュータウン等

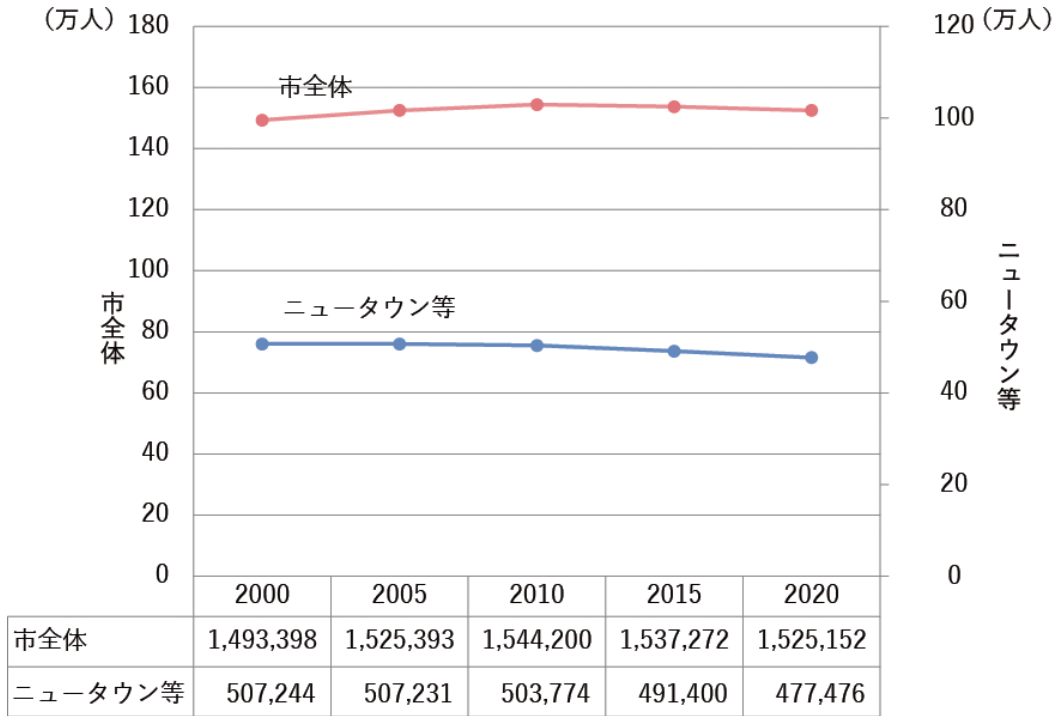
以下①～③のすべてまたは④に該当する開発事業区域

- ① 郊外での開発事業
- ② 開発面積10ha以上かつ計画人口1,000人以上
- ③ 人口の受け入れを主目的とした開発事業
- ④ 条件①～③に該当する団地に連担し、住宅開発を目的に行われた開発事業

出典：神戸市データ

市全体では2012年から人口が減少しており、ニュータウン等でも減少傾向にあります。

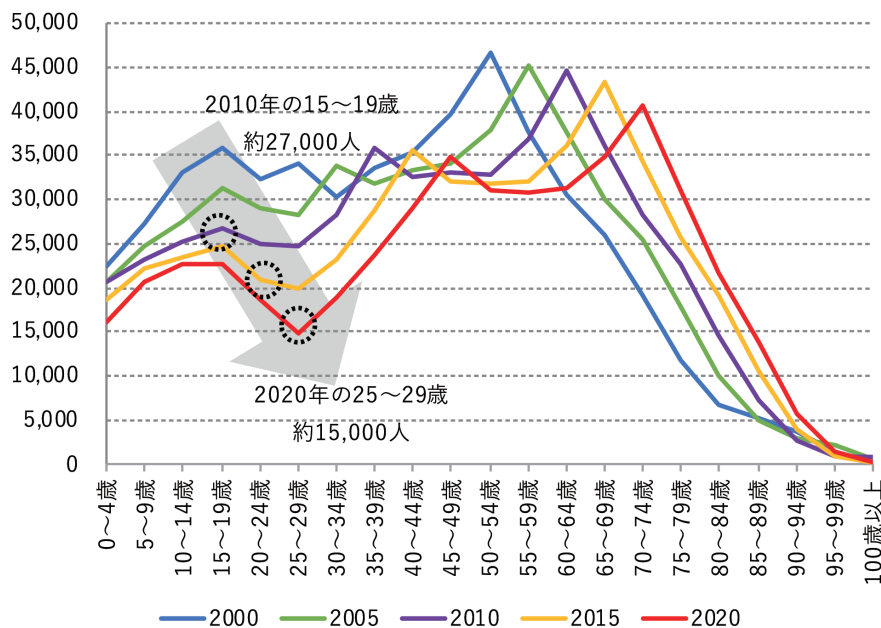
■人口推移の地域比較(市全体、ニュータウン等)



出典：総務省統計局 国勢調査

ニュータウン等の人口減少の大きな理由として、若者（ニュータウン等に家を購入した方の子の世代）の流出があります。例えば、2010年時点の15歳～19歳の人口（約27,000人）に対応する、10年後（2020年）の25～29歳の人口が約15,000人に減少しています。

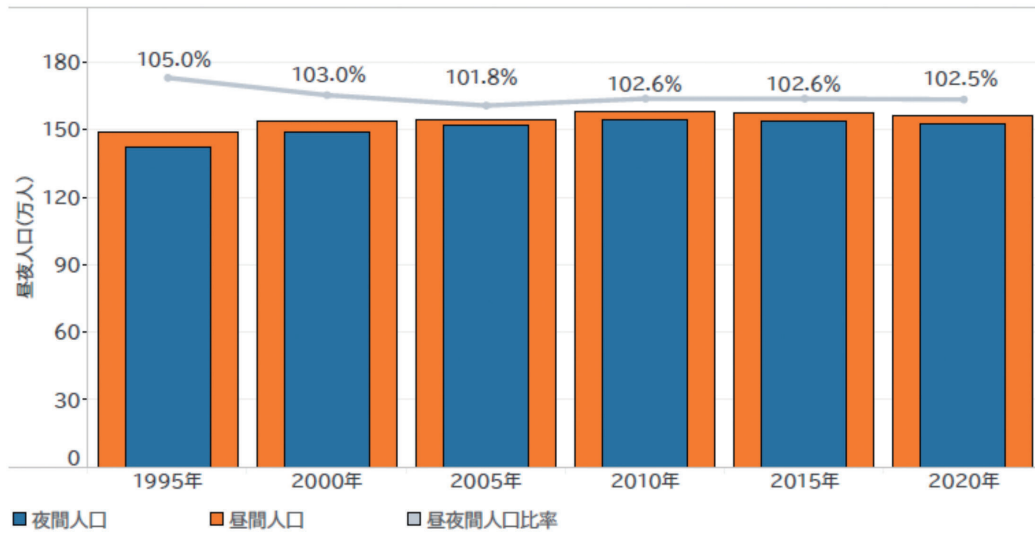
■人口ピラミッド(ニュータウン等のみ)



出典：総務省統計局 国勢調査

2020年の昼間人口は、156.4万人と夜間人口（152.5万人）を上回っています。（昼夜間人口比率102.5%）

### ■昼夜人口、昼夜間人口比率の推移



出典：2020年従業地・通学地による人口・就業状態等集計（神戸市HP）

周辺の周辺都市からの流入超過となる一方、大阪市への流出量が多くなっています。

### ■通勤分析



※青色が流入超過、赤色が流出超過を表します。  
※線の太さが流入流出量を表します。

出典：神戸市HPデータラボ（2020年国勢調査より）

## 2 自然条件

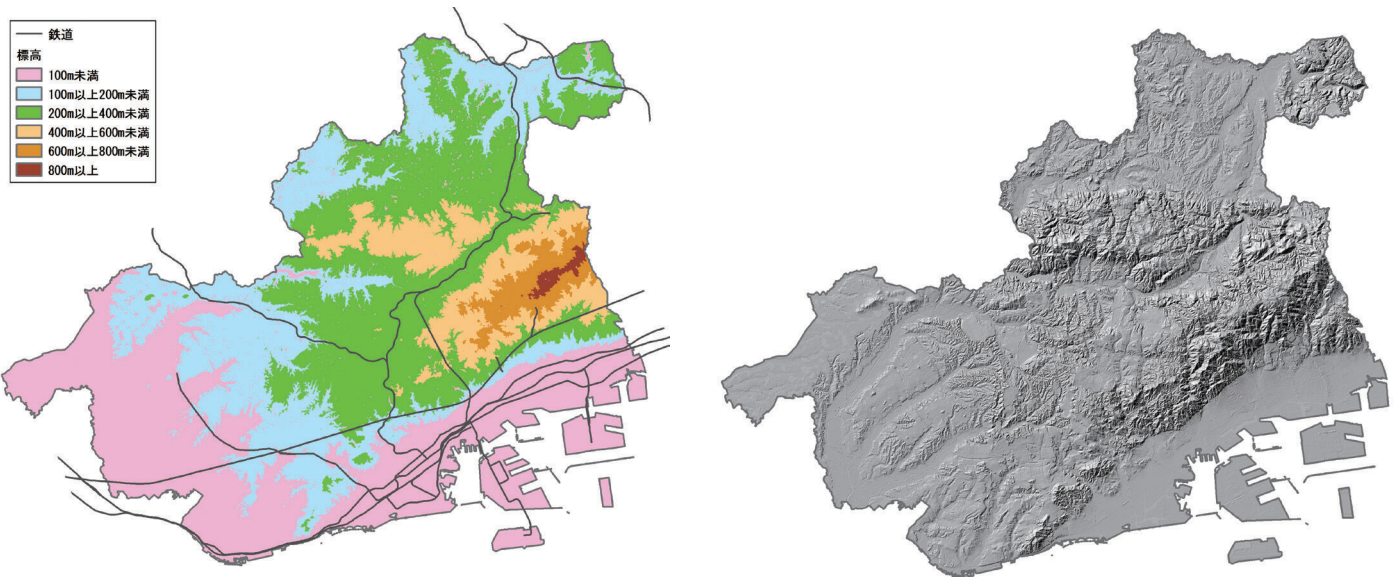
### 1 地形

神戸の地形は、六甲山系の山々と瀬戸内海に面した起伏のある変化に富んだ地形です。

市域は、東西約36km、南北約30km、面積約557km<sup>2</sup>であり、六甲山系により北と南に大きく二分されています。

大阪湾に面する南側は、六甲山系の山麓部に沿って中小河川による扇状地、湾岸低地、埋立地などが続く地形となっています。六甲山系の北側は、帝釈山地を中央にして、北側は丘陵地が波状に広がり、西側は穏やかな丘陵と播磨平野に連なる平野部から成り立っています。

#### ■地形(左:標高、右:陰影起伏)



出典:国土地理院(5mメッシュ数値標高モデル)

### 2 水と緑

神戸の水系は、六甲山系の南斜面から市街地を通り大阪湾に流れる表六甲水系、明石海峡に流れる明石川水系、播磨灘に流れる加古川水系、宝塚市や西宮市を経て大阪湾に流れる武庫川水系に大きく四分されています。

また、神戸は、六甲山系、帝釈山地、鎌倉峡、雄岡山・雌岡山などの山々を背山として、約30kmにおよぶ海岸線を前面に、美しい都市景観の市街地と西神・北神の豊かな農村地域で構成される、わが国屈指の緑の多い大都市です。

#### ■水系



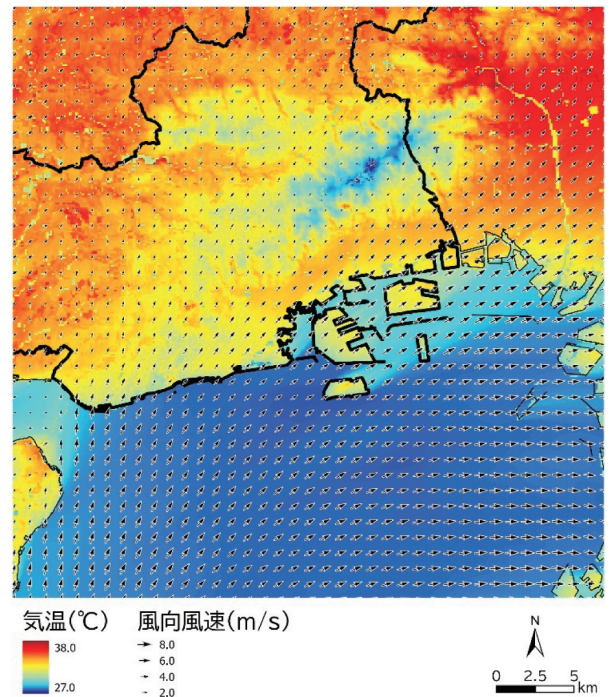
出典:神戸の川マップ(神戸市ホームページ)

### 3 気候等

神戸の気候は、瀬戸内海気候帯に属し、一般的に冬は温暖で夏は涼しいという特徴を持っています。

また、六甲山系南側の既成市街地の夏季の風系は、南西からの海風で形成され、沿岸部に加え、六甲山の山地部分が周辺と比較して気温が低くなっていることが分かります。

■夏季の風と気温(2022年8月11日の計算値)

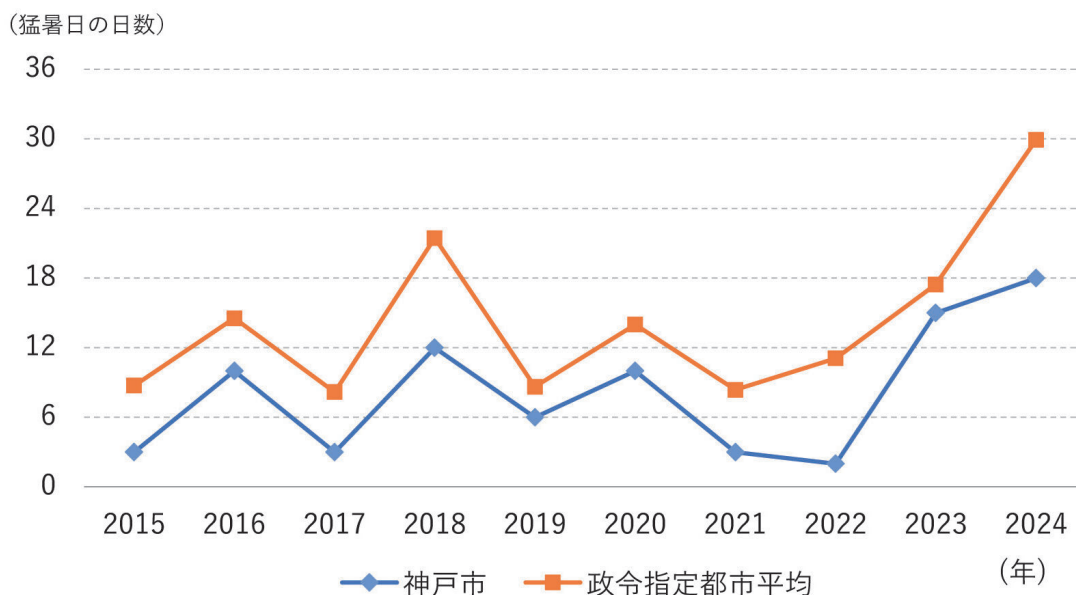


出典:大阪公立大学 緑地計画学研究グループにより作成

(参考)神戸市の猛暑日について

夏季(6~8月)における猛暑日(最高気温が35度以上の日)の日数は、2022年以降、増加傾向にあります。他の政令指定都市\*の平均と比較すると少なくなっており、神戸市は比較的涼しい環境となっています。

■猛暑日の推移



\*政令指定都市

対象とした政令指定都市は、気象庁によりデータが公表されており、かつ、北海道および東北地方を除いた、横浜市、千葉市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、岡山市、広島市、福岡市、熊本市とした

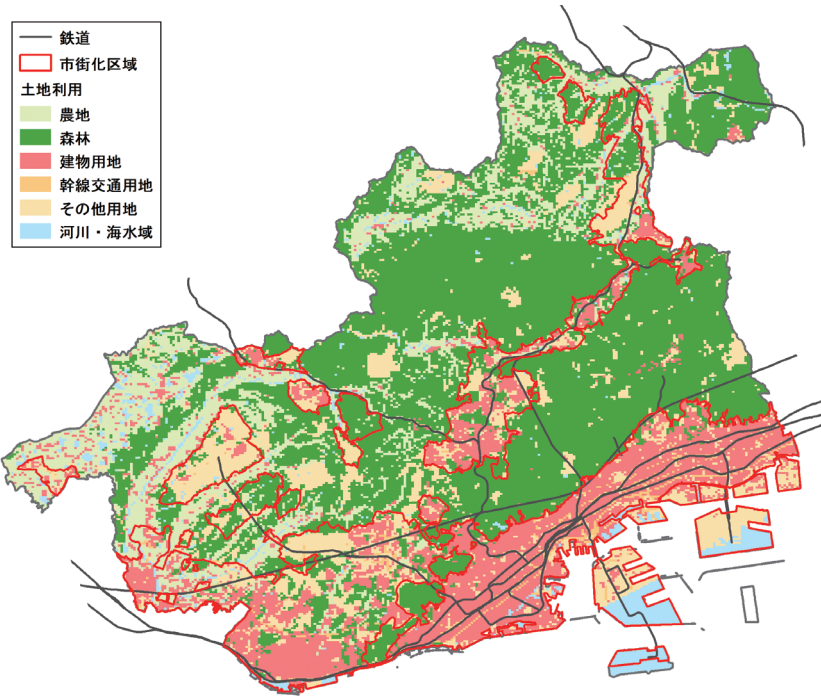
出典:気象庁

### 3 土地利用状況の変遷

神戸市は、地域ごとにさまざまな特徴・特性を有し、海・山・まち・農村などで構成されています。

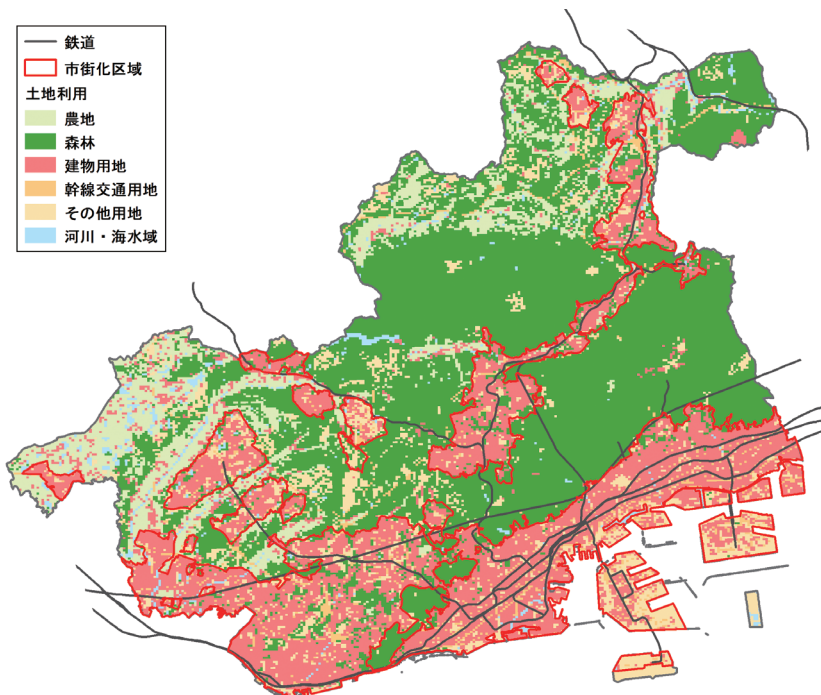
土地利用状況の変遷をみると、1987年から2020年にかけて郊外部で建物用地が増えており、市街化が進んでいることが分かります。形成された市街地は、鉄道駅や主要バス路線沿線を中心として広がっており、鉄道を軸とした計画的な市街地形成によってコンパクトな都市構造が構築されています。

#### ■土地利用状況(1987年)



出典：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ

#### ■土地利用状況(2020年)



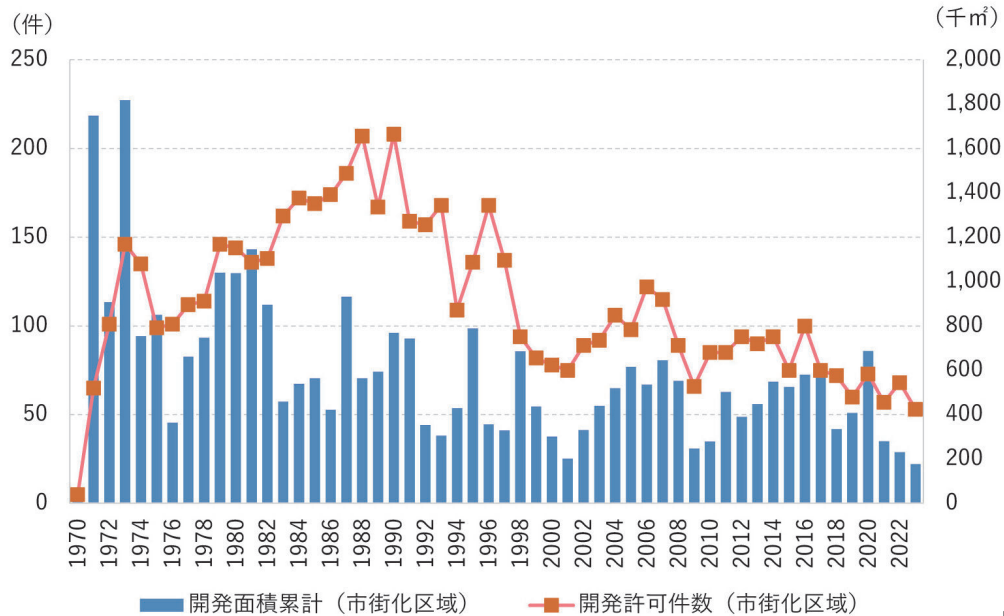
出典：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ

## 4 開発、住宅動向

### 1 開発許可

市街化区域の開発許可件数は1990年をピークとして2006年以降は減少傾向となっており、2023年は約50件程度となっています。

#### ■市街化区域における開発許可面積・件数の推移

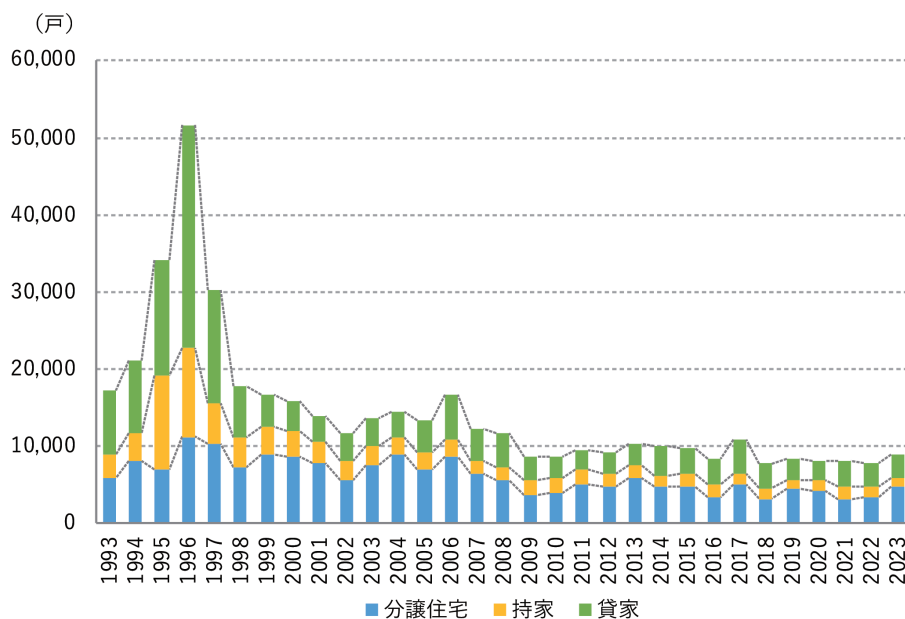


出典：神戸市データ

### 2 新築住宅

阪神・淡路大震災直後の着工戸数の増加以降、全体として減少傾向にあり、2009年以降は10,000戸前後で推移しています。

#### ■新築住宅の着工戸数の推移



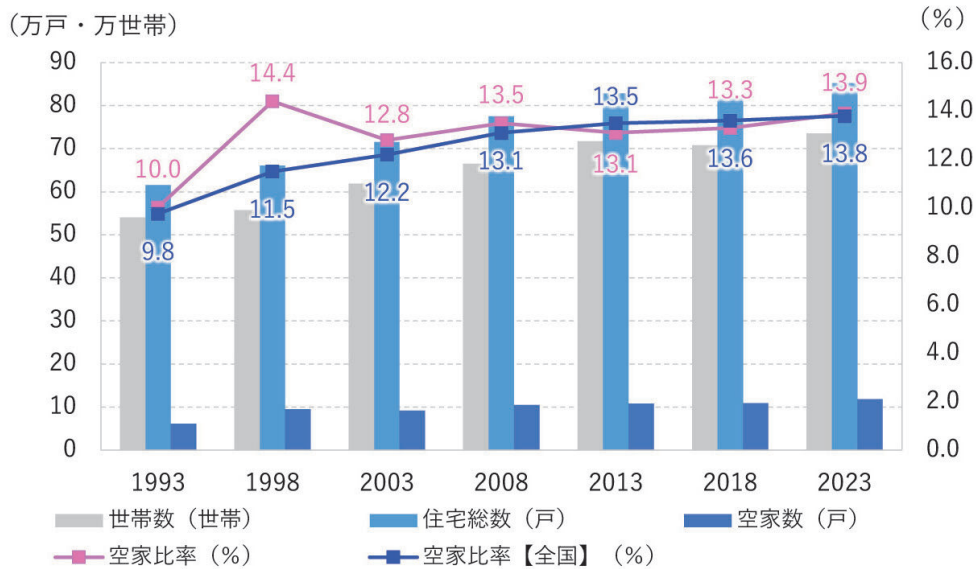
出典：神戸市統計書

### 3 空き家

神戸市内には、2023年時点で、約11万8千戸の空き家があると推計されています。

また、空き家比率は増加傾向にあり、阪神・淡路大震災後の1998年を除き、概ね全国の空き家比率と同程度となっています。

#### ■市内の住宅戸数および住宅の空き家戸数の推移

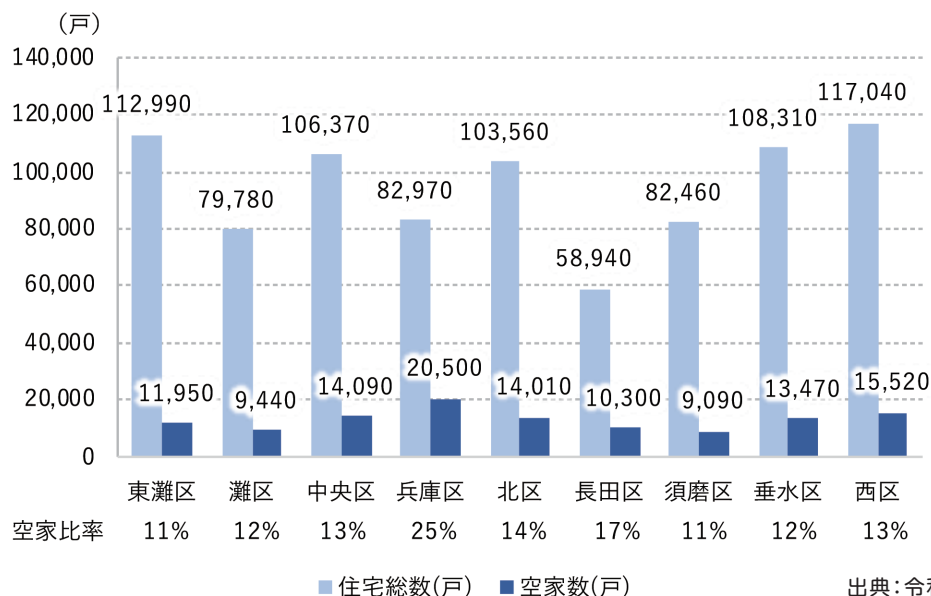


	1998年	2003年	2008年	2013年	2018年	2023年
世帯数	557,000	619,300	664,800	717,100	707,600	735,200
住宅総数	661,000	715,500	774,900	828,300	820,100	852,400
空き家数	95,200	91,400	104,600	108,100	109,200	118,400

出典：令和5年住宅土地・統計調査

各区とも1～2割程度の空き家が存在しています。

#### ■区別の住宅総数、空き家率および空き家比率



出典：令和5年住宅土地・統計調査

## 5 都市交通

### 1 公共交通網

神戸市の公共交通網は、六甲山系南側の既成市街地を東西に結ぶ鉄道網と、既成市街地と郊外のニュータウンを結ぶ鉄道網を基幹として、これをバス路線網が補完するネットワークにより形成されています。

また、神戸市の玄関口となる広域交通拠点として、三宮を中心に新神戸駅、神戸空港などが整備されています。

#### ■公共交通網



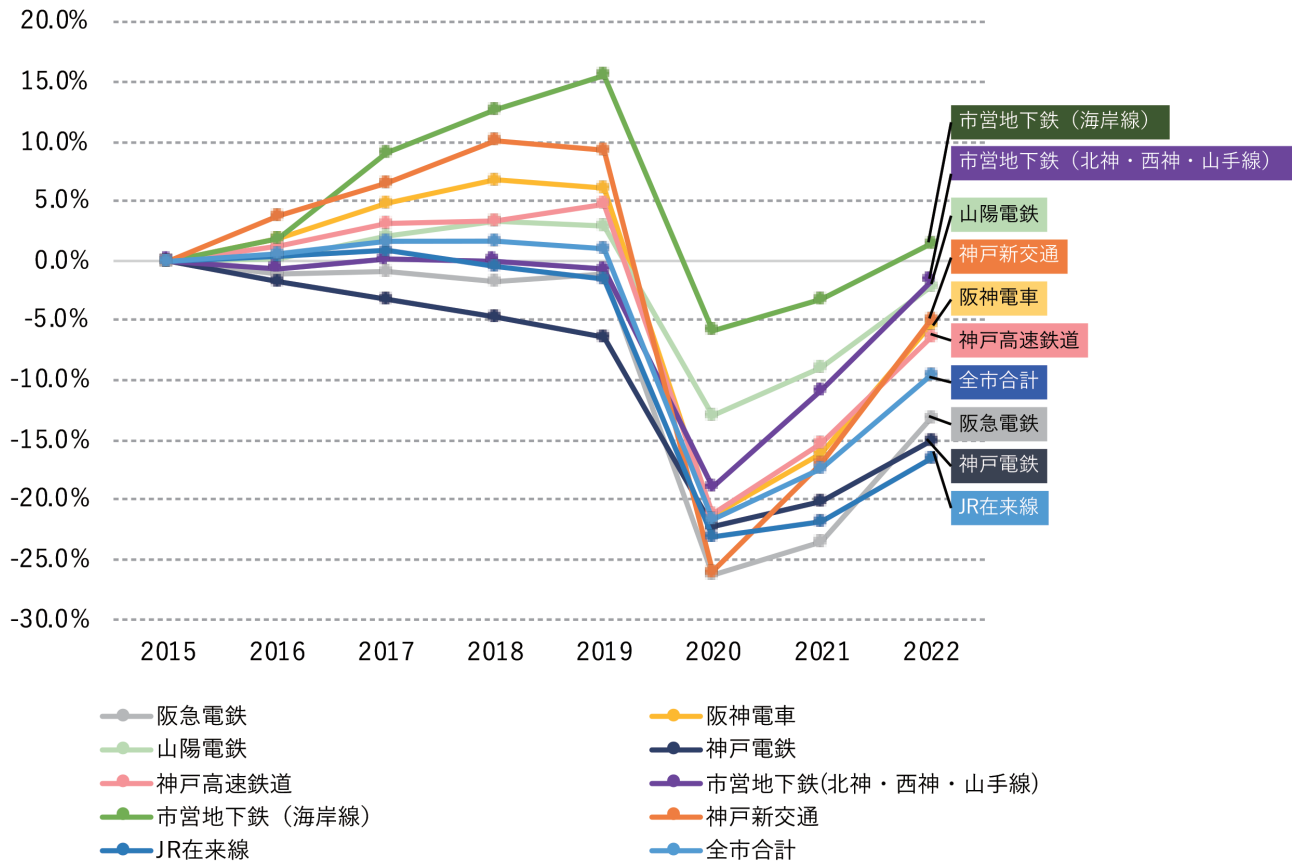
出典：神戸市地域公共交通計画 (R6.4)

## ② 公共交通の利用状況

### 1. 鉄道

市内の鉄道網10路線の乗車人員は、2015年を基準としてみると増加傾向となっていました。新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年に急激に減少しましたが、近年では徐々に回復傾向にあります。

#### ■ 鉄道乗車人員の推移



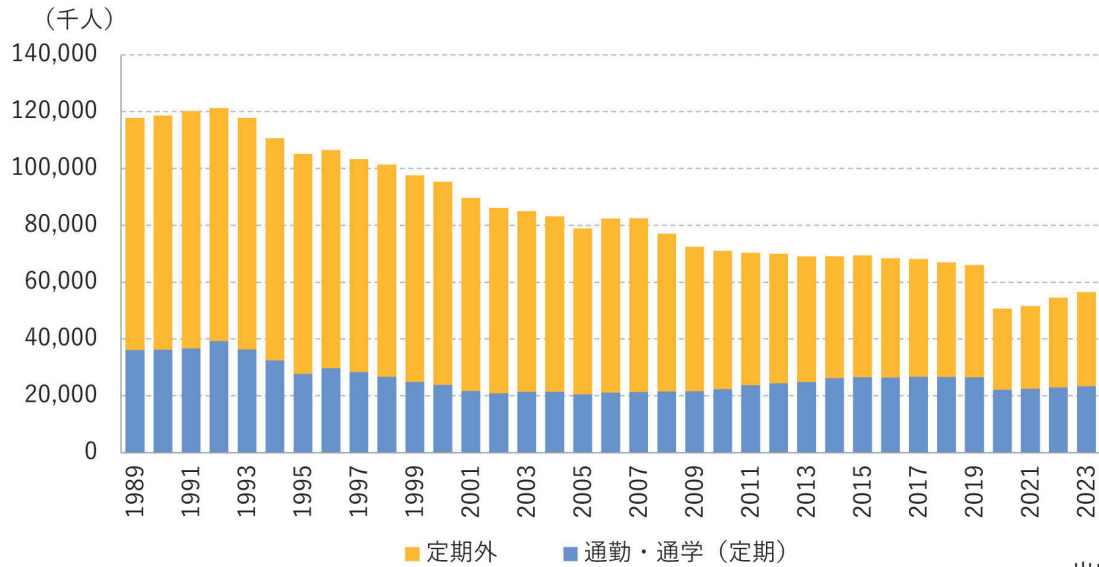
出典：神戸市統計書

## 2. バス

市バス乗車人員の推移をみると、1992年をピークに減少が続いており、2023年度は黒字路線23路線に対し、赤字路線は62路線と全路線の約7割が赤字路線となっています。

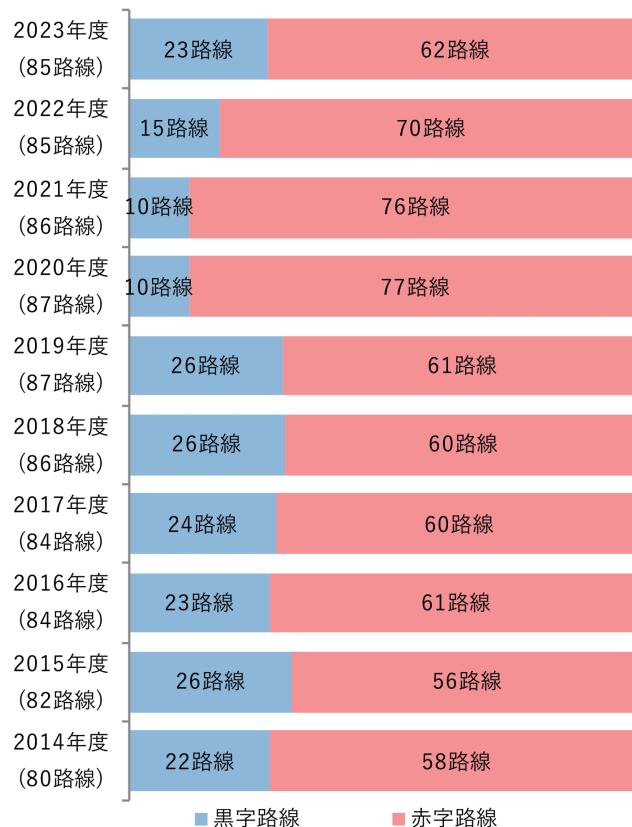
地域の生活交通を支えるバス路線の維持にあたり、市バスに限らず運転手不足が深刻な問題となっています。

### ■市バス乗車人員の推移



出典：神戸市統計書

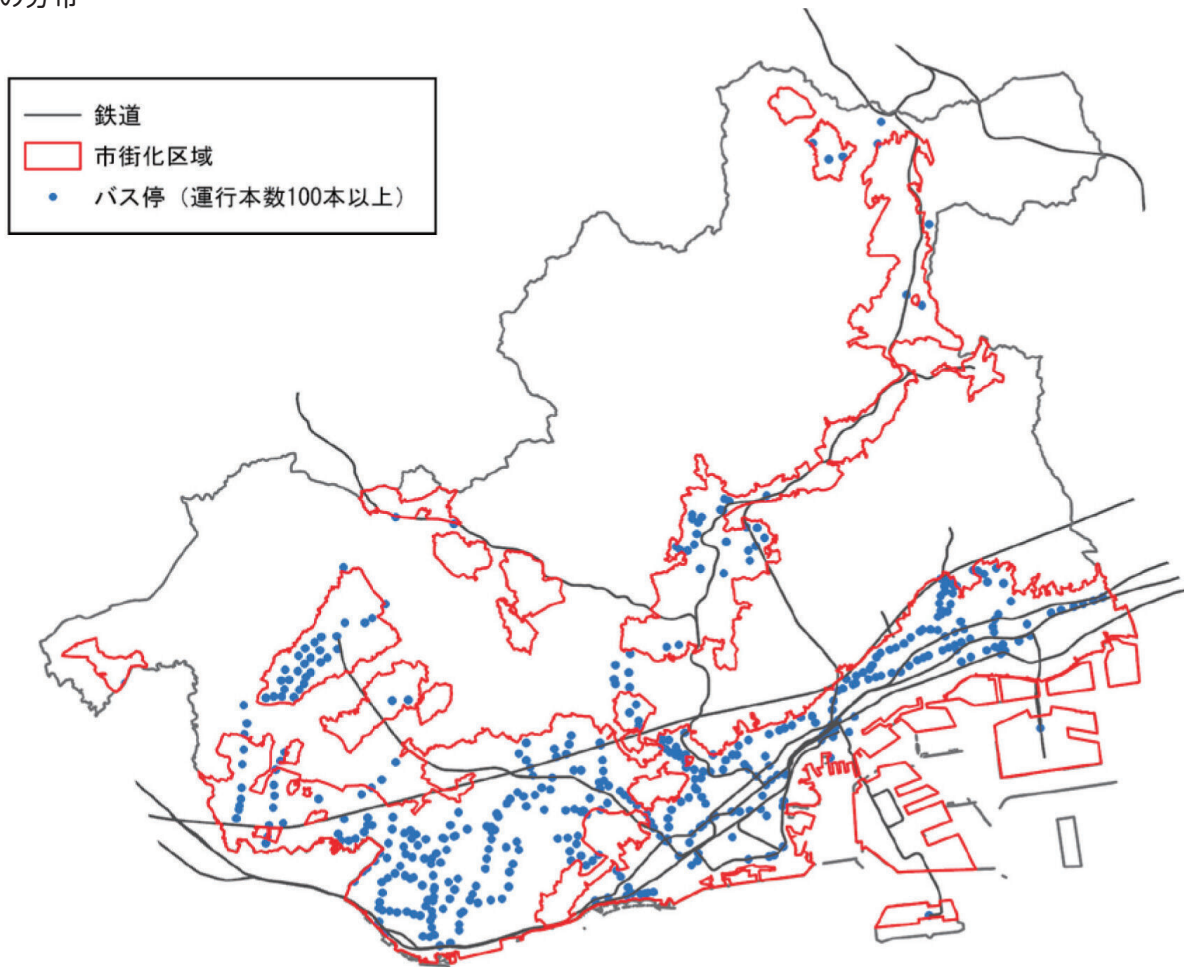
### ■市バス路線別収支状況



出典：(2014年度～2017年度)路線別経営状況  
(2018年度～2024年度)各系統の収支状況

2025年1月時点で神戸市内にバス停は約1,500ヶ所あり、1日当たりの運行本数が概ね100本以上の運行頻度の高いバス停は約300ヶ所です。

#### ■バス停の分布



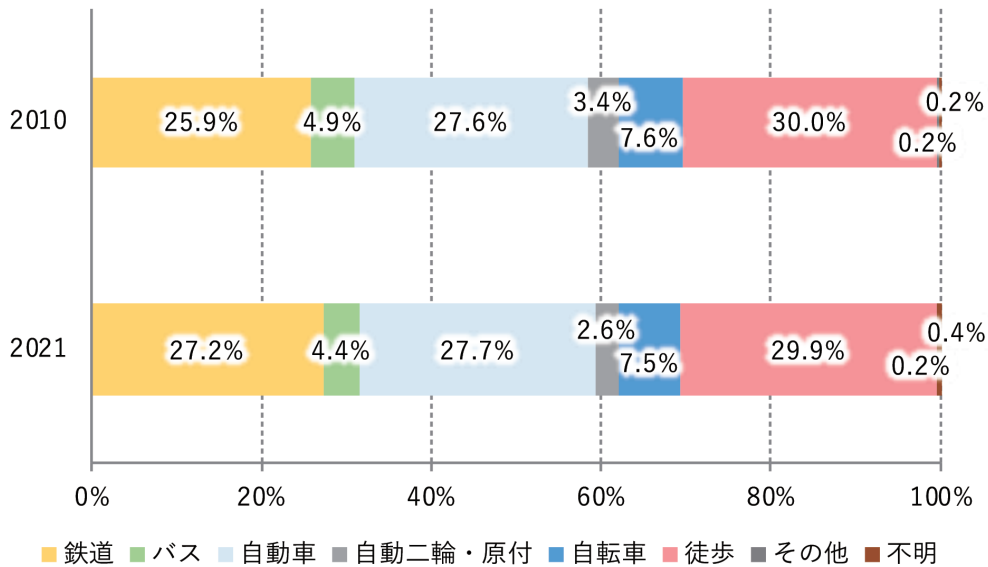
出典：バス運行状況を基に市作成

### 3. 交通手段

代表交通手段構成の推移を見ると、2010年から2021年にかけてほぼ横ばいで推移しています。

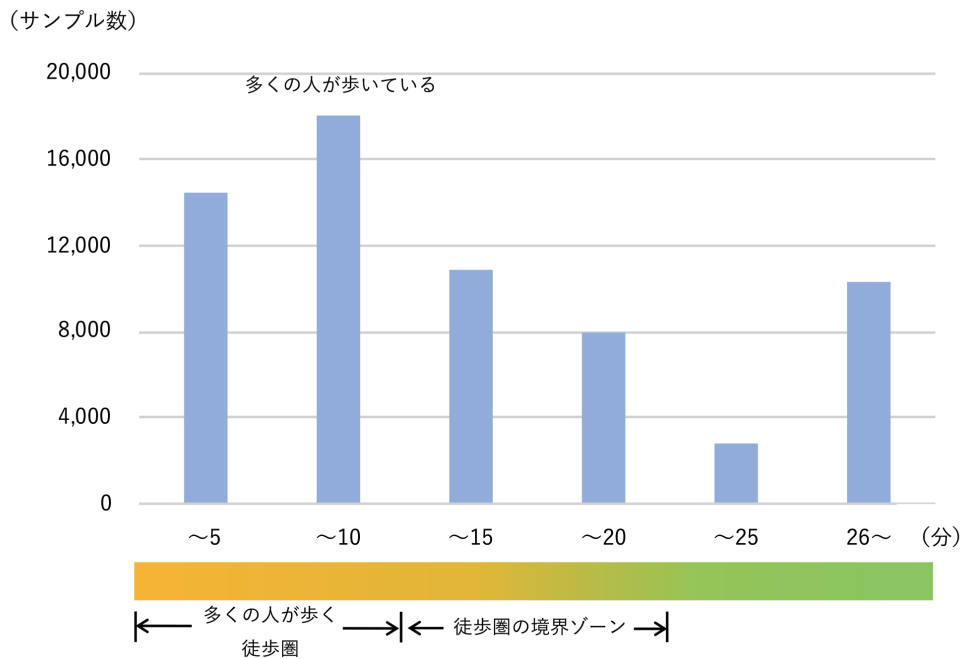
徒歩圏を把握するために、パーソントリップ調査を用い、目的地まで徒歩を選んだ人を抽出すると、多くの人が歩いている時間が徒歩10分までで、20分を超えると減少しています。

#### ■代表交通手段構成比の推移(平日・発生集中量)



出典：神戸市における人の動き(R6.3)

#### ■目的地まで徒歩を選んだ人の分布



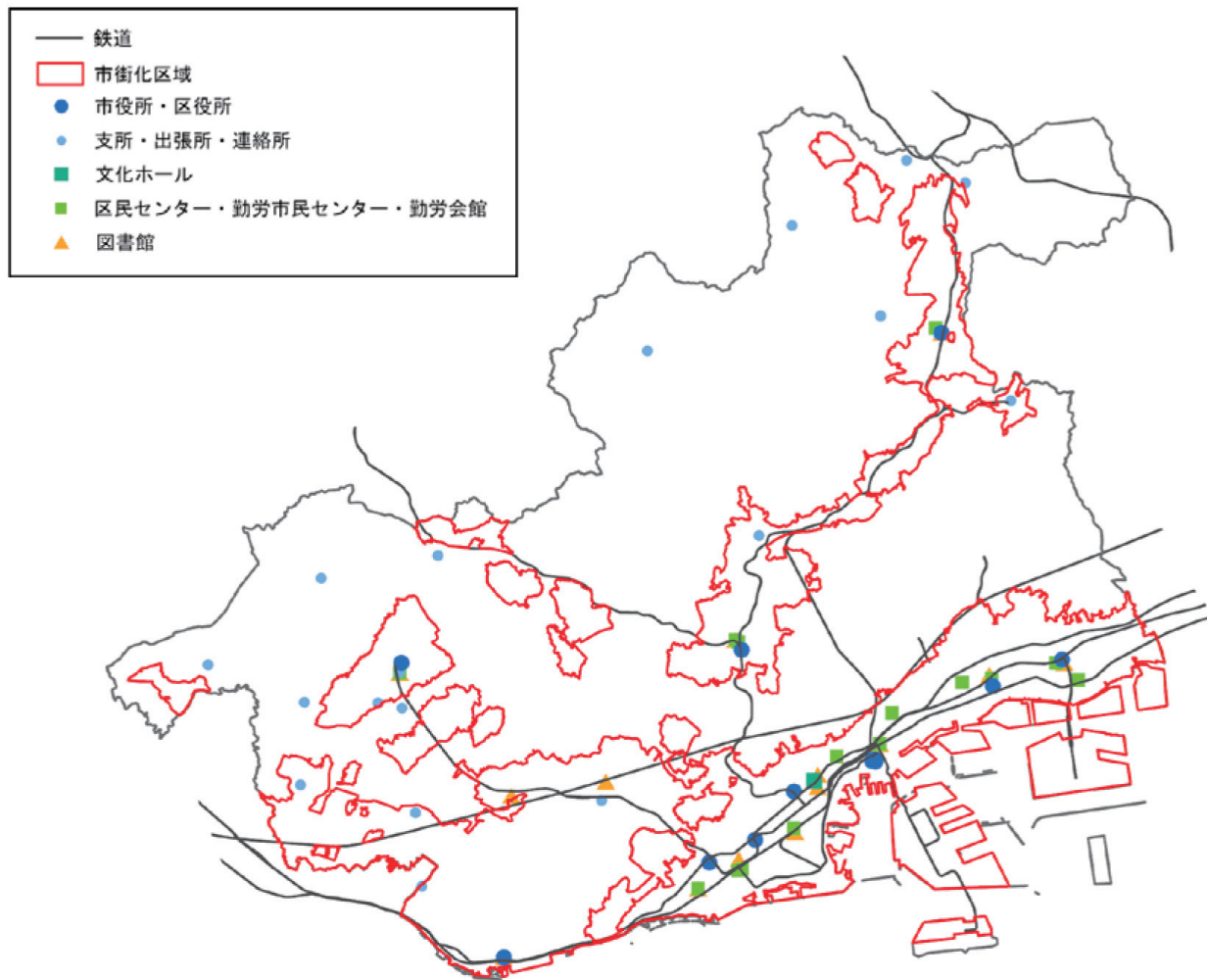
出典：第6回(R3)パーソントリップ調査(近畿地方整備局)より作成

## 6 生活サービス

### 1 主な公共施設

公共施設の多くが、鉄道駅周辺に立地しており、広域からアクセスしやすい環境にあります。

#### ■主な公共施設の分布

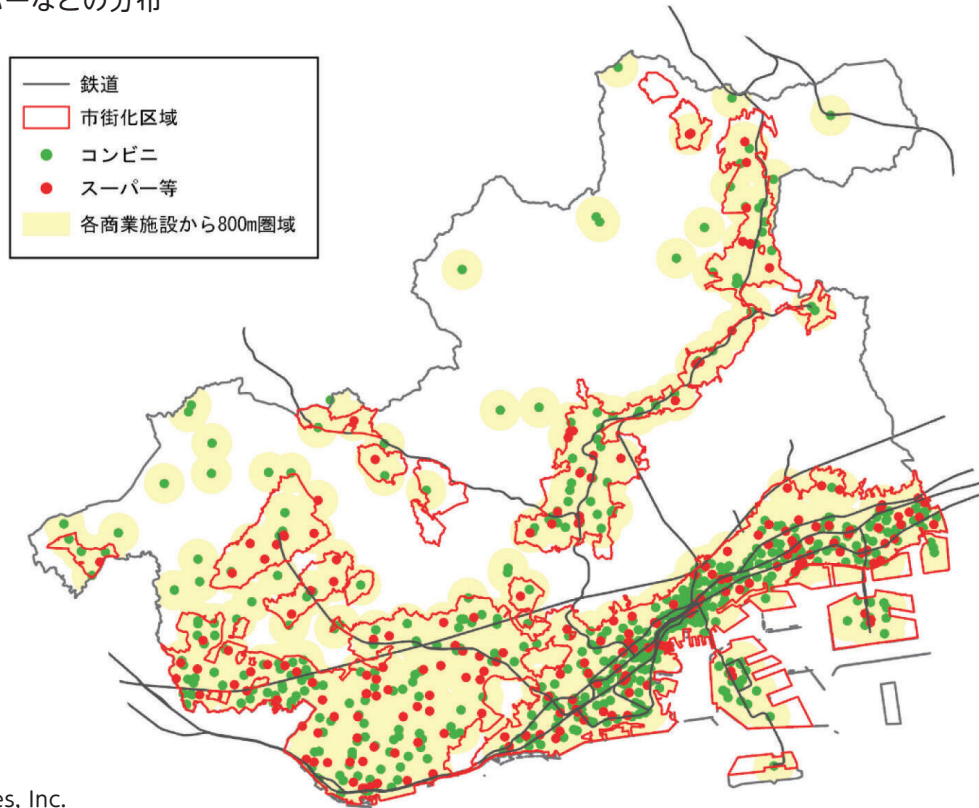


出典：神戸市データ

## ② 主な生活に必要な身近な施設

スーパーや病院など生活に必要な施設も市全域に広く立地しており、市街化区域においては徒歩圏で概ね網羅されています。

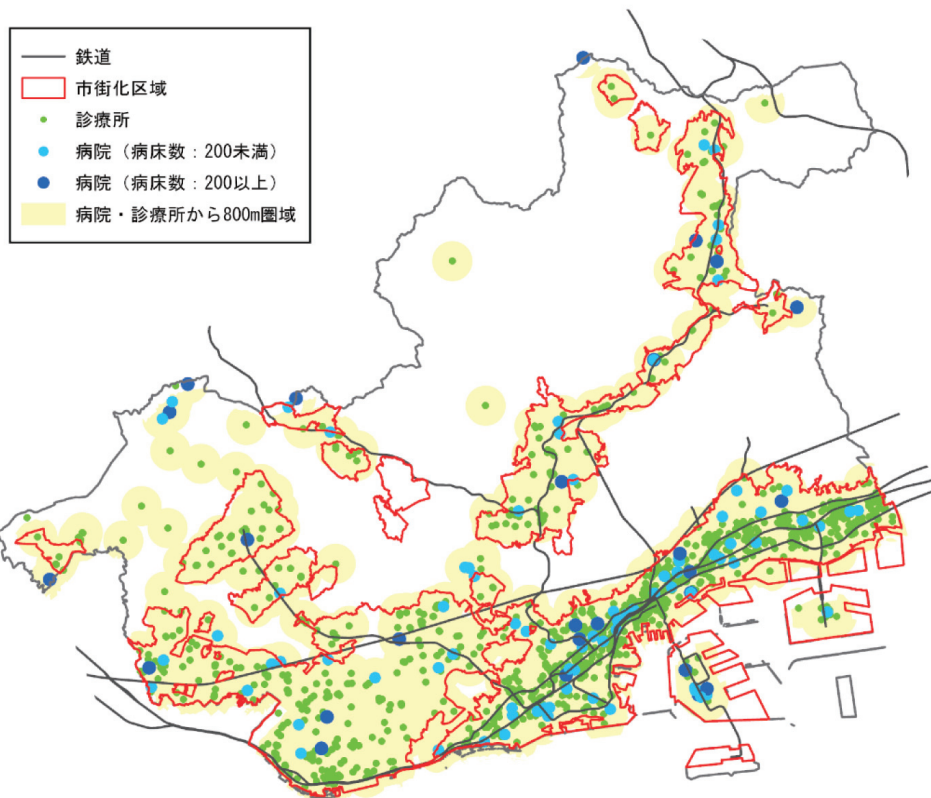
### ■コンビニ・スーパーなどの分布



©Geo Technologies, Inc.

出典：神戸市データ

### ■医療施設の分布



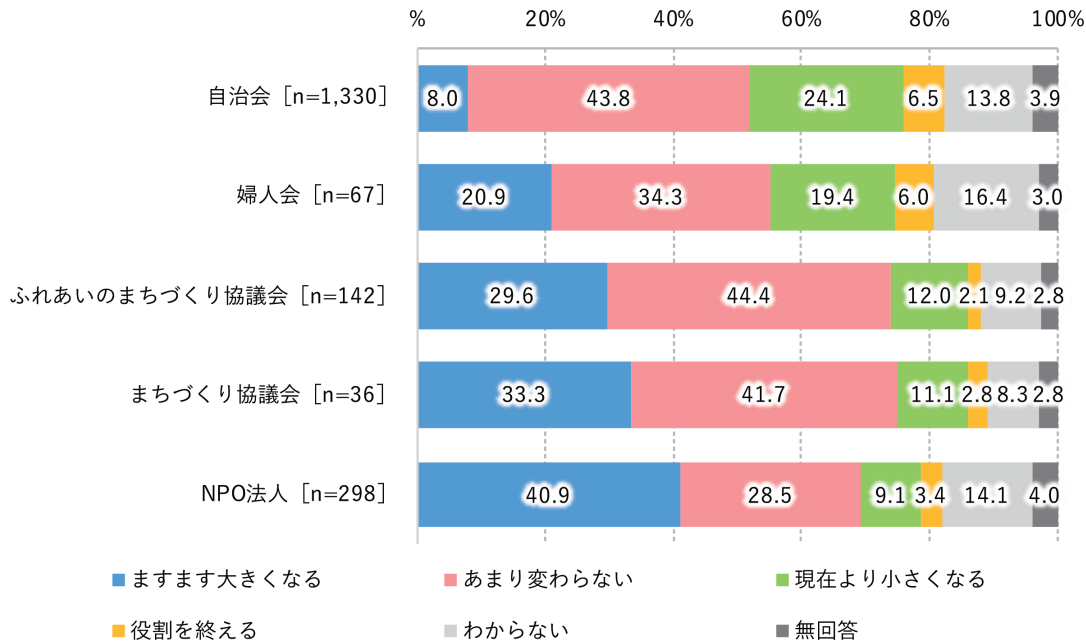
出典：神戸市データ、兵庫県内病院一覧(令和6年4月1日時点)

## 7 コミュニティ

神戸市内で活動する各地域団体の、今後の役割について尋ねたところ、自治会や婦人会では「現在より小さくなる」という回答が比較的多く見られましたが、まちづくり協議会やNPO法人は「ますます大きくなる」という回答が比較的多くなっています。

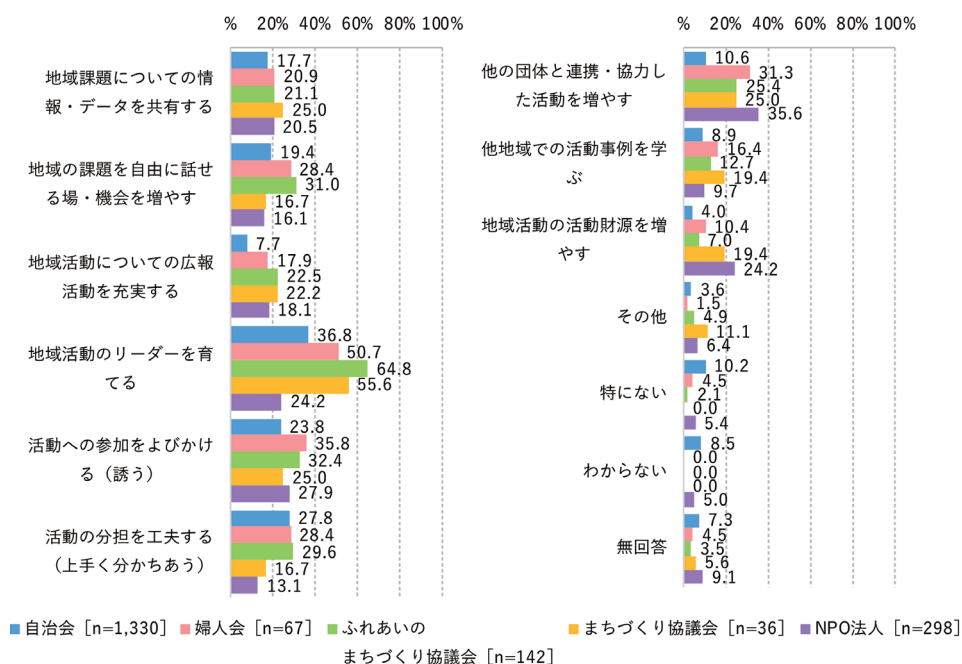
また、活動を活発にしていくために必要なことは、いずれの団体も「地域活動のリーダーを育てる」が最も多くなっています。

### ■ 団体が担う役割の今後についての考え



出典：令和4年度 神戸市内地域組織基礎調査

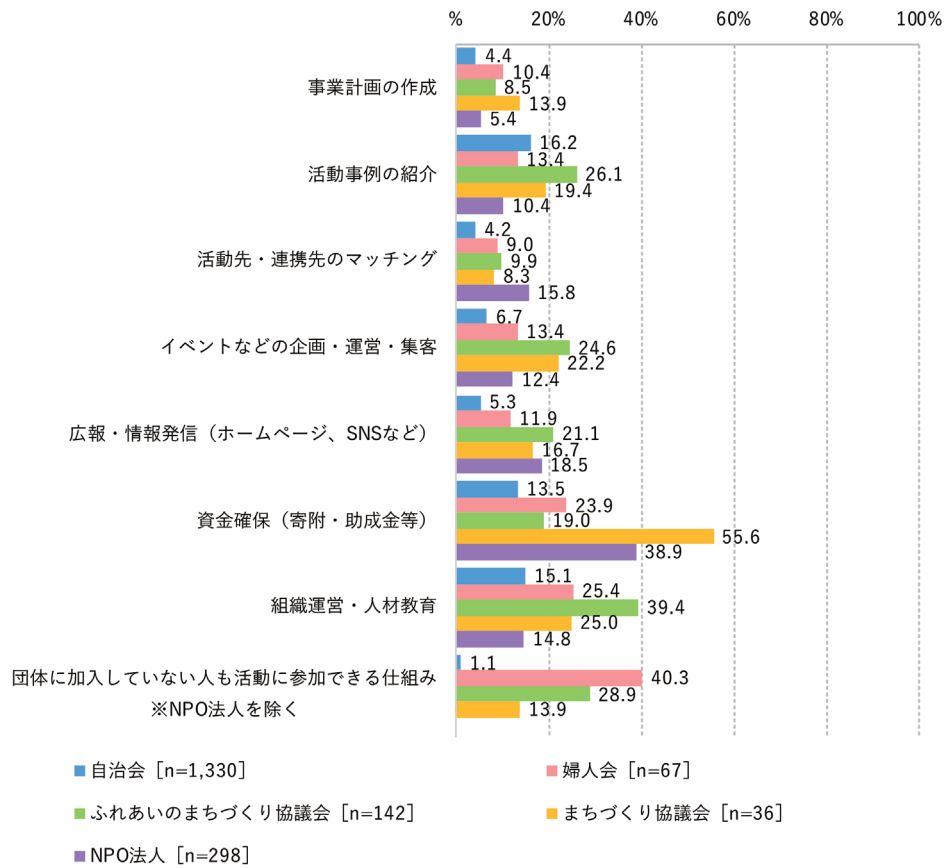
### ■ 団体の活動を活発にしていくための必要なこと



出典：令和4年度 神戸市内地域組織基礎調査

市に相談したいことや支援を希望することについては、まちづくり協議会やNPO法人は「資金確保（寄附・助成金等）」が、ふれあいのまちづくり協議会は「組織運営・人材教育」、婦人会は「団体に加入していない人も活動に参加できる仕組み」がそれぞれ多く見られています。

### ■市に相談したいことや支援を希望すること



出典：令和4年度 神戸市内地域組織基礎調査

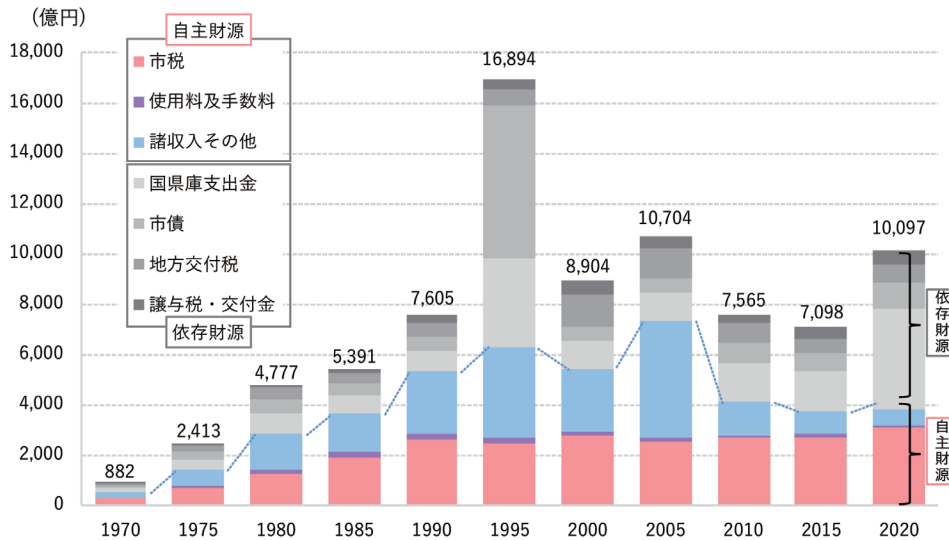
## 8 財政、経済活動

### 1 財政

#### 1. 歳入決算の状況

自主的で自律的な財政運営を可能とするために必要な市税などの自主財源は、ほぼ横ばいで推移しています。

#### ■歳入決算額および構成比の推移（一般会計）



出典：神戸市統計書

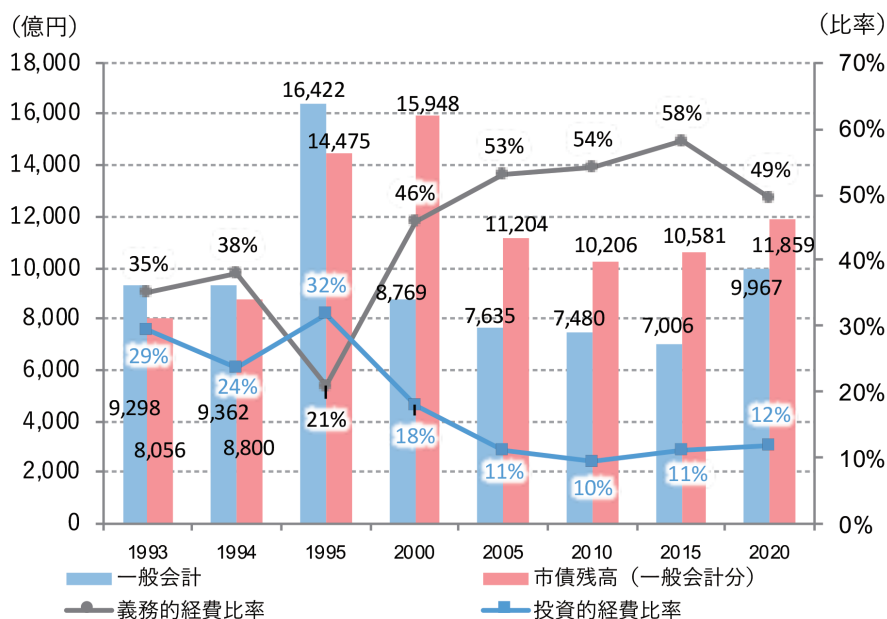
#### 2. 歳出決算の状況

神戸市は震災復旧工事の後、財政上の課題もあり、施設などの整備および維持修繕にかかる経費を減らさざるを得なかった面がありました。

一般会計歳出における投資的経費の割合は、震災前の約3割から1割程度に減少しています。

一方で、義務的経費は震災前の約3割から、5割前後で推移しており、財政構造の硬化化がうかがえます。

#### ■投資的経費と義務的経費の推移（一般会計）



出典：神戸市統計書

## ② 公共施設の状況

本市が所有する公共建築物の総床面積は824万㎡となっています。今後、多くの施設において老朽化が進んでいく見込みです。

### ■公共建築物の概要(令和7年3月31日時点)

		主な施設	床面積	構成比
行政財産	公用財産	庁舎等	36万㎡	4.4%
	公共用財産	学校園	182万㎡	22.1%
		市営住宅	304万㎡	36.9%
		市民福祉施設	206万㎡	25.0%
		企業用財産	37万㎡	4.5%
普通財産		貸付財産等	59万㎡	7.1%
合 計			824万㎡	100.0%

出典：第2期神戸市公共施設等総合管理計画(令和8年3月)

### ■建築後40年以上\*経過する施設の割合と今後の見通し

令和7年3月	10年後	20年後
50.9%	75.3%	90.0%

\*一般的な建替の目安となる年数、今後の見通しは単純推計

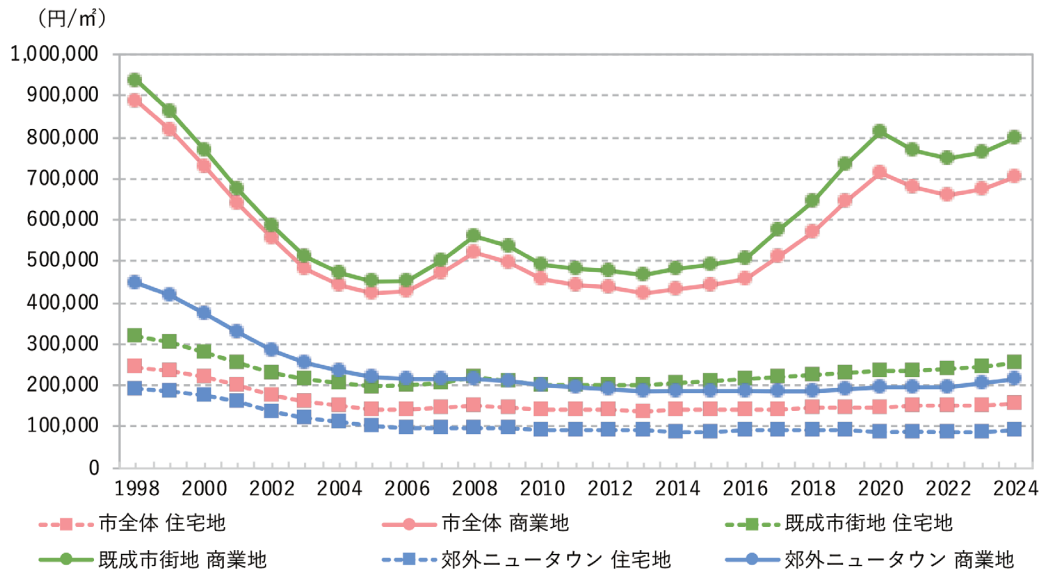
出典：第2期神戸市公共施設等総合管理計画(令和8年3月)

### ③ 地価の動向

神戸市全体の地価は、商業地は2020年まで上昇を続けていましたが、近年は横ばい傾向となっています。住宅地は概ね横ばいで推移しています。

地域別で見ると、既成市街地の商業地は市全体と同様の傾向を示していますが、郊外ニュータウンの商業地は横ばいで推移しています。住宅地は地域にかかわらず概ね横ばいで推移しています。

#### ■ 区域別地価の推移

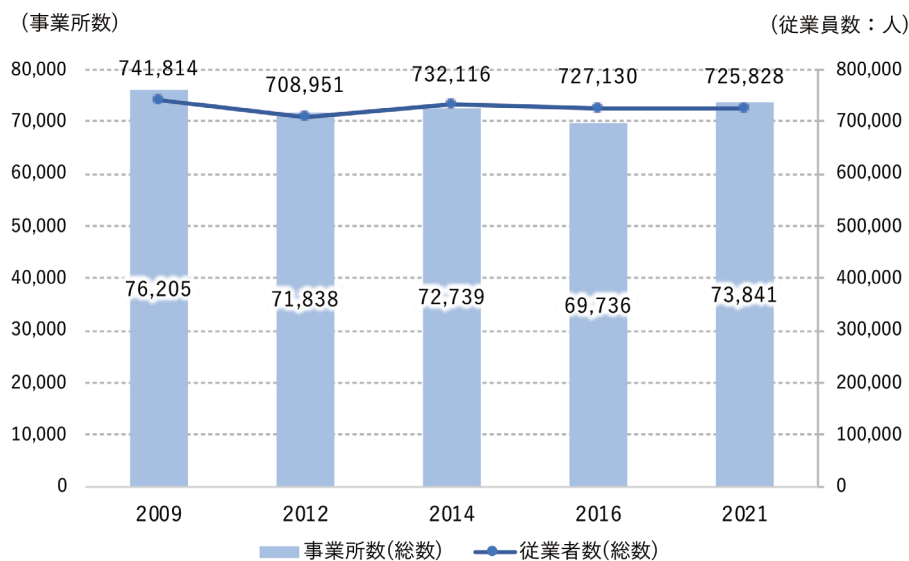


出典：国土数値情報 地価公示

### ④ 事業所数・従業員数

2009年以降、事業所数と従業者数は共に横ばいで推移しています。

#### ■ 民営事業所数および従業者数の推移(事業内容不詳を含む)



出典：経済センサス基礎調査、経済センサス活動調査

## 5 産業構造

2021年度の市内総生産額は約7.0兆円で、製造業が2割以上と最も多くなっていますが、第3次産業で約7割を占めています。

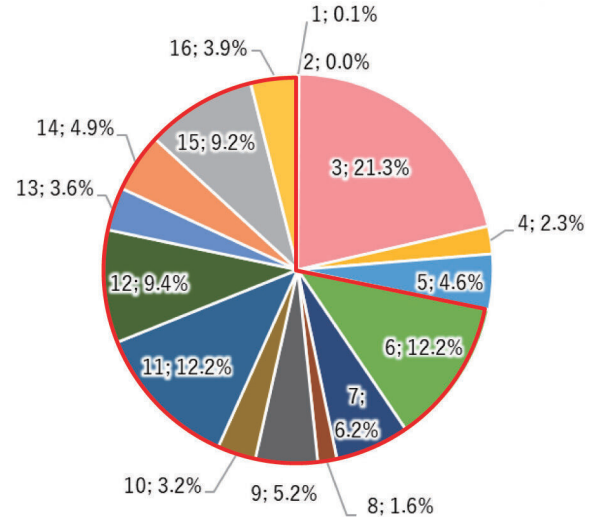
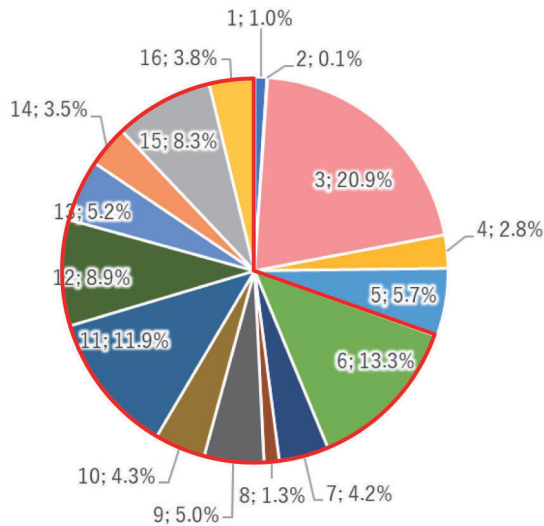
全国と概ね同様の構成比率となっており、神戸市の経済規模は全国の約1.3%となっています。

### ■国内総生産(2021年度)

### ■市内総生産(2021年度)

【国内】総生産額：約549兆円

【神戸市】総生産額：約7.0兆円



- 1: 農林水産業
- 3: 製造業
- 5: 建設業
- 7: 運輸・郵便業
- 9: 情報通信業
- 11: 不動産業
- 13: 公務
- 15: 保健衛生・社会事業

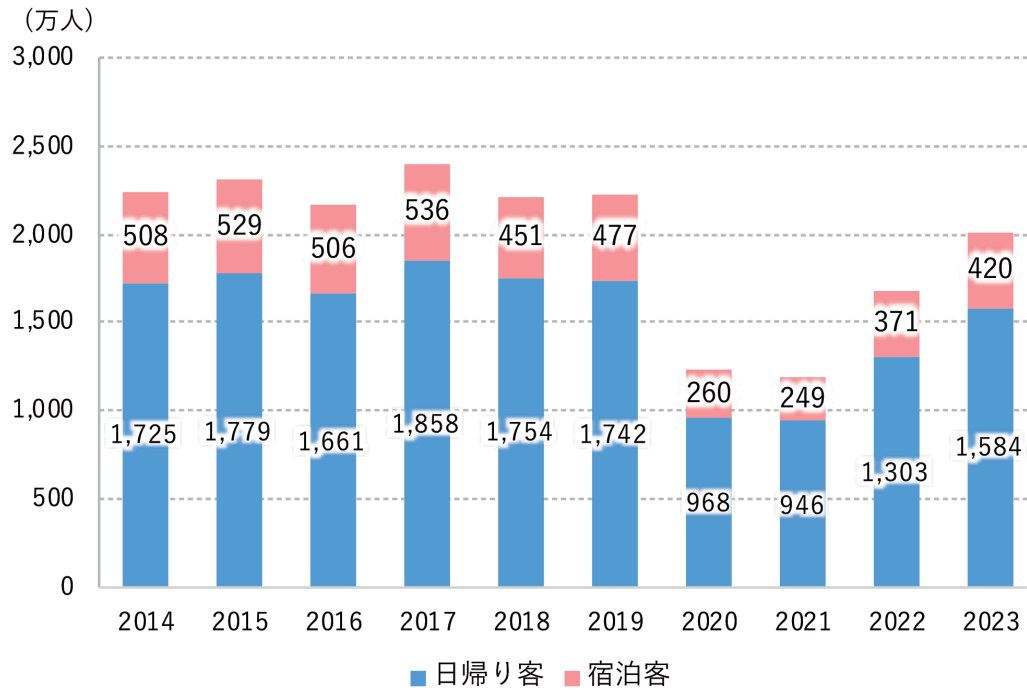
- 2: 鉱業
- 4: 電気・ガス・水道・廃棄
- 6: 卸売・小売業
- 8: 宿泊・飲食サービス業
- 10: 金融・保険業
- 12: 専門・科学技術、業務支援サービス業
- 14: 教育
- 16: その他のサービス

出典：内閣府国民経済計算、神戸市民経済計算

## 6 観光等

観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2020年以降、日帰り客および宿泊が急激に減少しましたが、近年では徐々に2019年以前の水準に戻りつつあります。

### ■観光入込客数



出典：神戸市統計書

## 9 防災

### 1 土砂災害

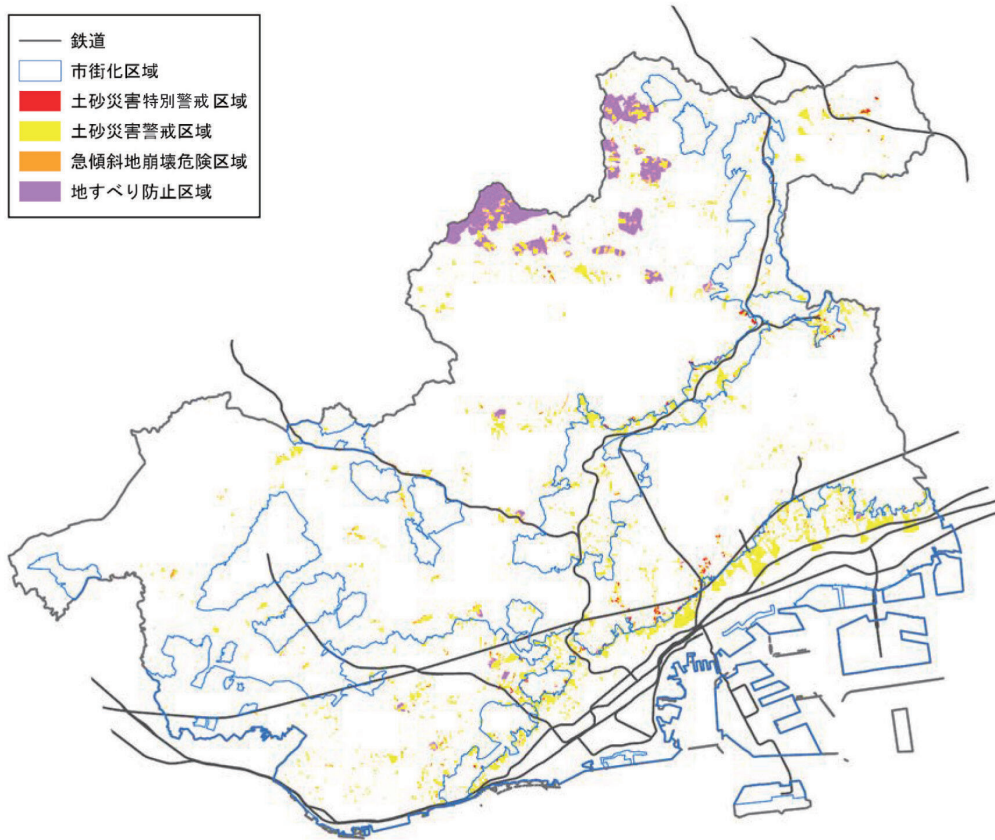
神戸市は起伏に富んだ地形であるため、土砂災害など災害危険性の高い地域が多く存在します。

≪指定状況≫R8.3 時点

- ・土砂災害特別警戒区域：1,030 箇所指定（保全人家：1,475 戸※）
- ・急傾斜地崩壊危険区域：245 箇所指定
- ・地すべり防止区域：31 箇所指定

※R6.6 時点

#### ■土砂災害



出典：神戸市情報マップ(2024年11月1日現在)

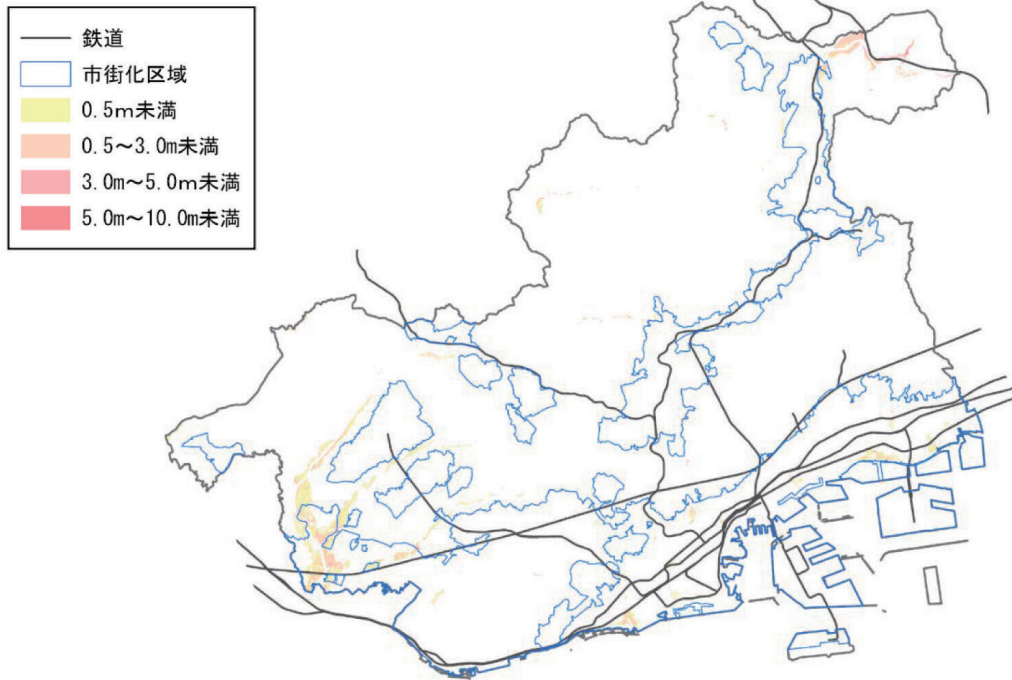
## ② 水害

### 1. 河川浸水

河川の洪水による浸水想定区域（1/100年確率規模降雨）は、河川沿いを中心に浸水が想定されています。

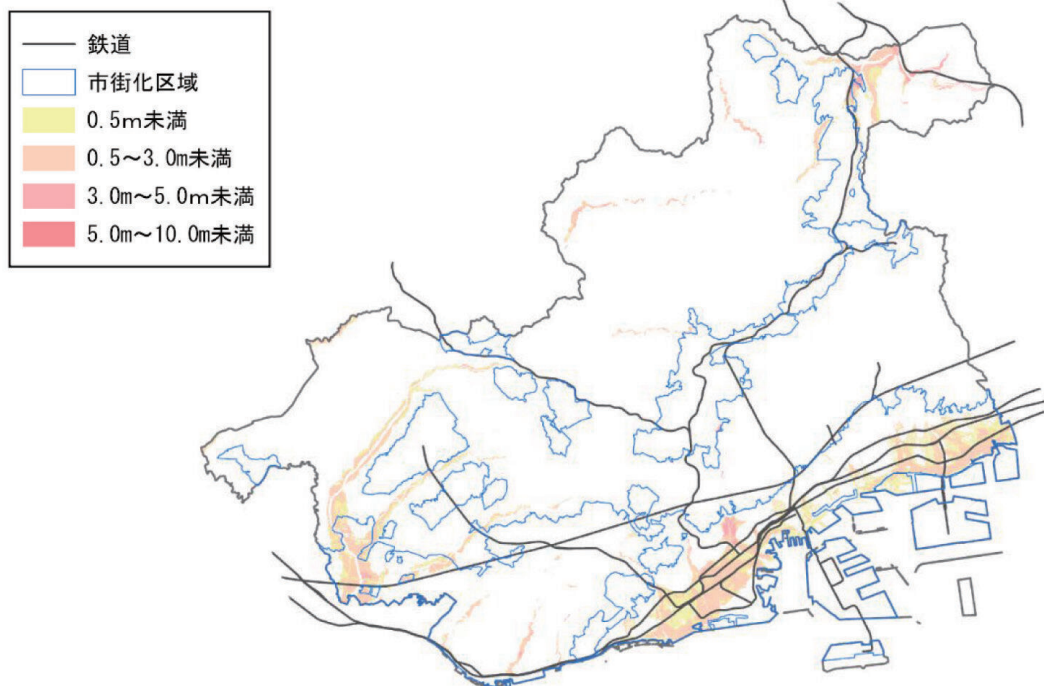
想定最大規模降雨（1/1000年確率規模以上）では、沿岸部を中心に広範囲に指定され、浸水深も大きくなることが想定されています。

#### ■浸水想定区域（計画規模）



出典：神戸市情報マップ(2024年11月1日現在)

#### ■浸水想定区域（想定最大規模）

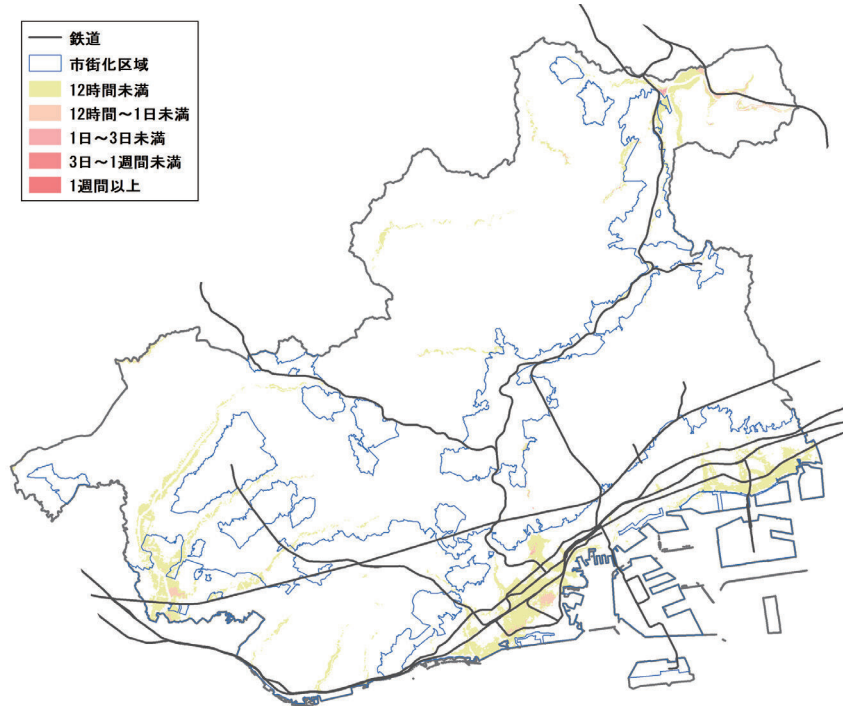


出典：神戸市情報マップ(2024年11月1日現在)

河川の洪水による浸水継続時間（想定最大規模降雨）は、浸水想定区域の大半が 12 時間未満となっていますが、一部 12 時間～1 日と想定されているエリアがあります。

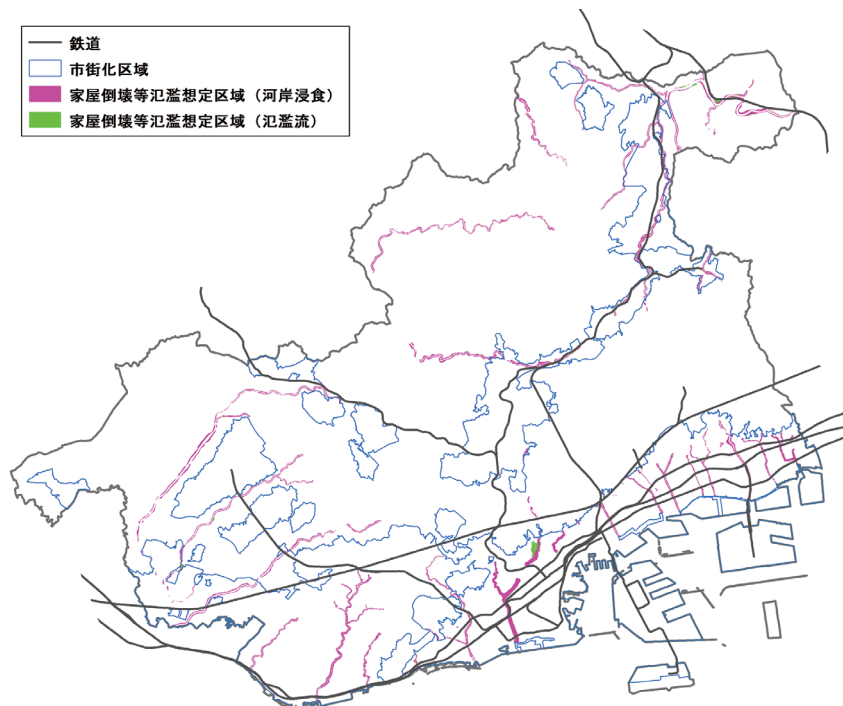
家屋倒壊等氾濫想定区域（想定最大規模降雨）をみると、市内の河川沿いで河岸浸食が想定されています。

### ■浸水想定区域（浸水継続時間）



出典：兵庫県オープンデータ(令和4年4月1日時点)

### ■家屋倒壊等氾濫想定区域

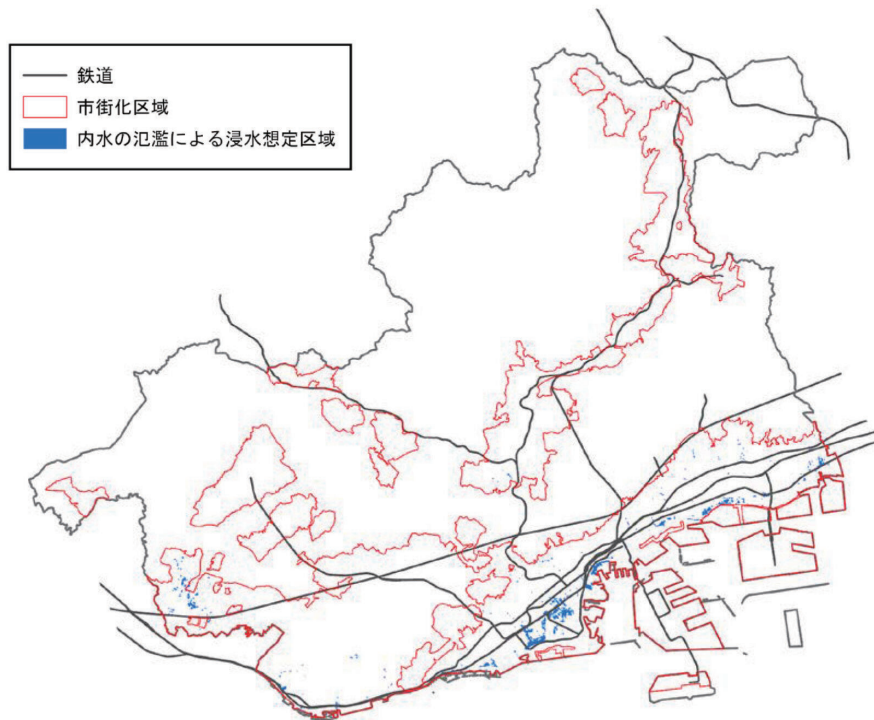


出典：兵庫県オープンデータ(令和4年4月1日時点)

## 2. 内水

内水の氾濫による浸水想定区域は、100年に1回程度の確率の豪雨が生じたときに、雨水管からあふれた水により、概ね深さ20cm以上の浸水が発生すると想定される区域を示しており、沿岸部の一部エリアで被害が想定されています。

### ■浸水想定区域(内水)

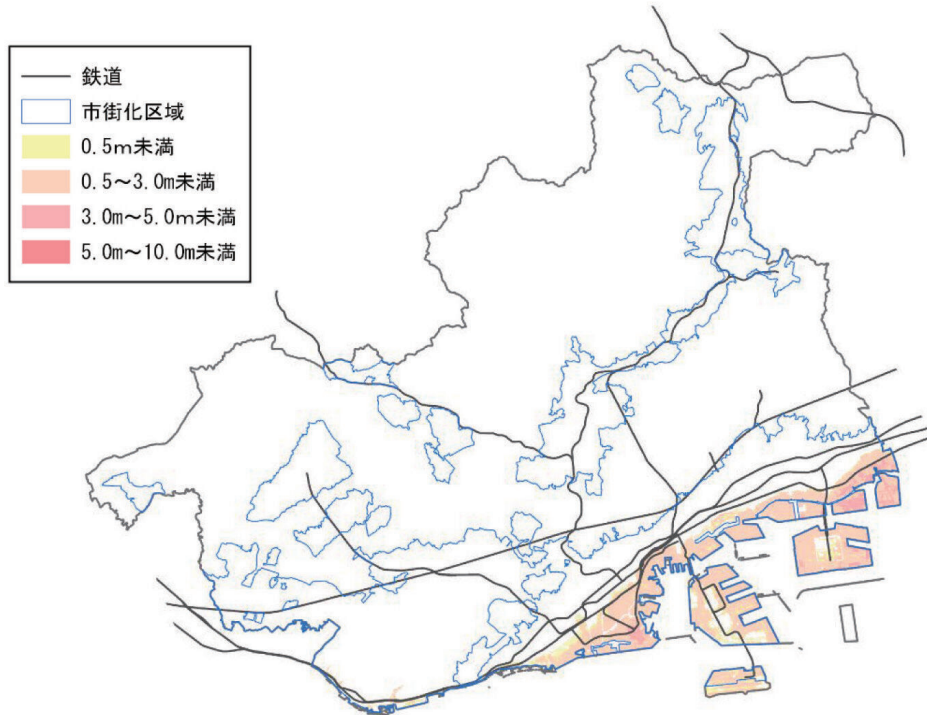


出典：神戸市情報マップ(2024年11月1日現在)

### 3. 高潮

500年～4000年に一度の最大規模の高潮が発生した場合に、沿岸部を中心に浸水が想定されています。一方で、1965年度から2015年度まで防潮堤などの海岸保全施設を整備したことから、比較的発生頻度の高い高潮(概ね100年に一度程度)に対して、人の住む区域は浸水しないと想定しています。

#### ■浸水想定区域(高潮)



出典：神戸市情報マップ(2024年11月1日現在)

#### ■浸水継続時間(高潮)

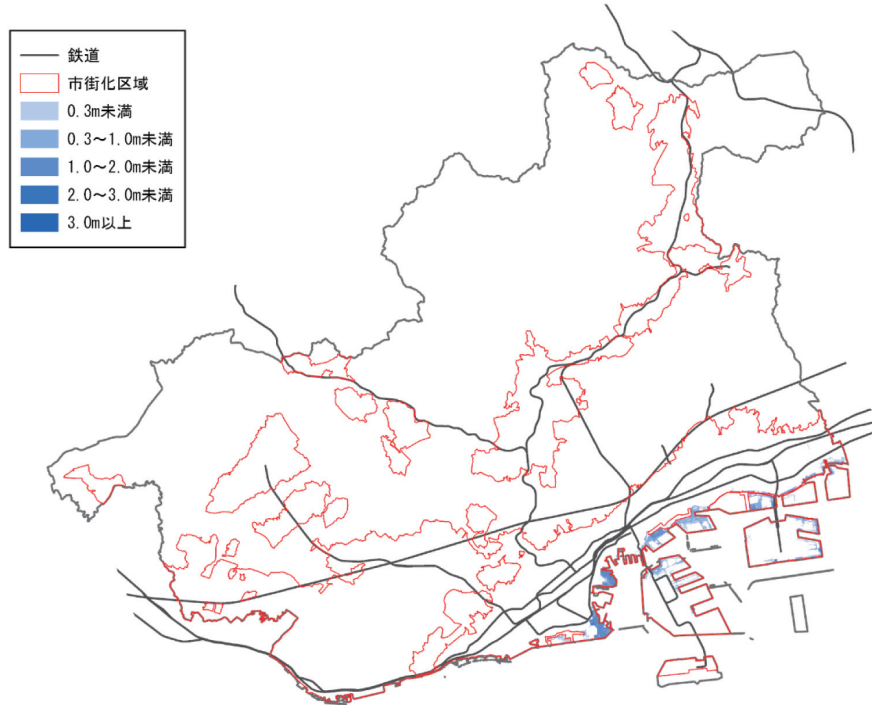


出典：神戸市情報マップ(2024年11月1日現在)

## 4. 津波

神戸市では 1000 年に一度の確率で発生する津波の対策を、2023 年 3 月に完了しており、人の住む区域は浸水しないと想定しています。

### ■浸水想定(津波)



出典：神戸市情報マップ(2024年11月1日現在)



# 3 居住・都市機能の 方針関連

## 1 駅・主要バス停周辺居住区域、山麓・郊外居住区域について

### ① 区域設定の考え方

#### 【鉄道駅からの徒歩圏】

パーソントリップ調査によると、多くの人が歩いている時間が徒歩10分までで、20分を超えると減少していますが、年齢や考え方などの違いから、徒歩圏として考えられる時間は、人によってさまざまに幅があります。

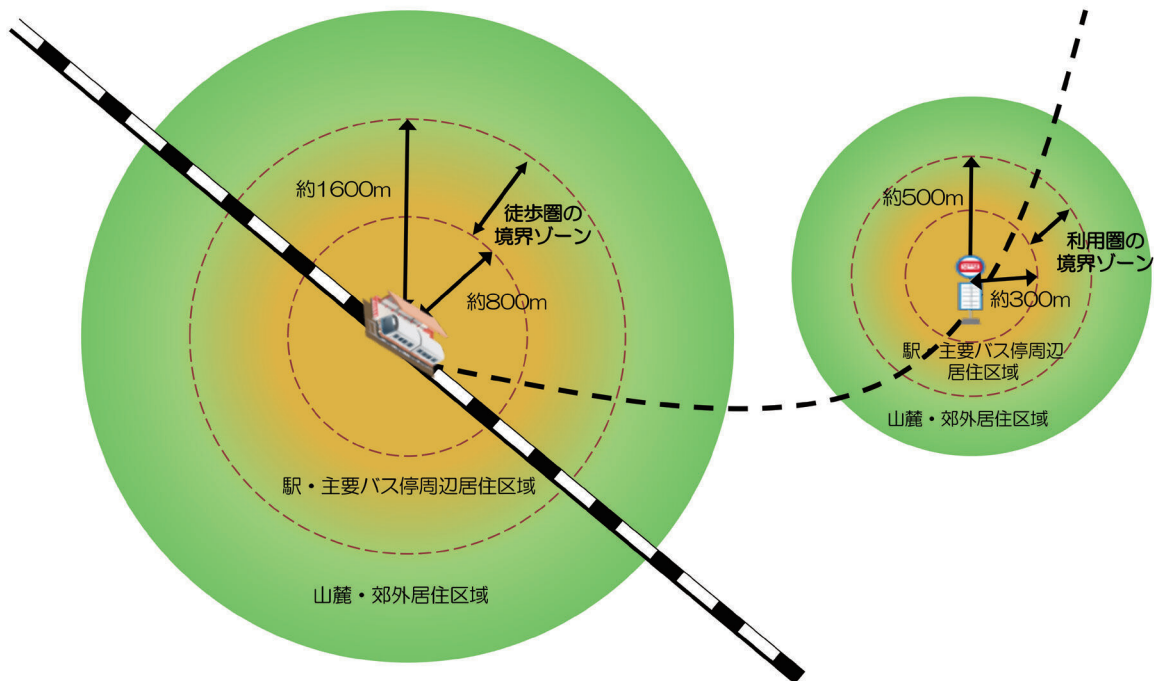
本計画では、道路距離80mにつき1分間を要するものとして、鉄道駅から経路800mから1,600mの範囲までの幅を境界ゾーンとし、その外縁を鉄道駅からの徒歩圏とします。

#### 【主要バス停の利用圏】

駅から離れたエリアは、駅周辺に比べて都市のスポンジ化にともなうリスクが大きいと想定されますが、拠点駅にアクセスしやすいバス停周辺は、交通利便性が比較的高く、生活サービスを受容しやすい環境にあると考えられます。




そこで本計画では、運行頻度が高く拠点駅にアクセスするバス停から、一般的なバス停の利用圏である経路300mから500mの範囲までの幅を境界ゾーンとし、その外縁を主要バス停の利用圏とします。

図3-3 境界ゾーンのイメージ

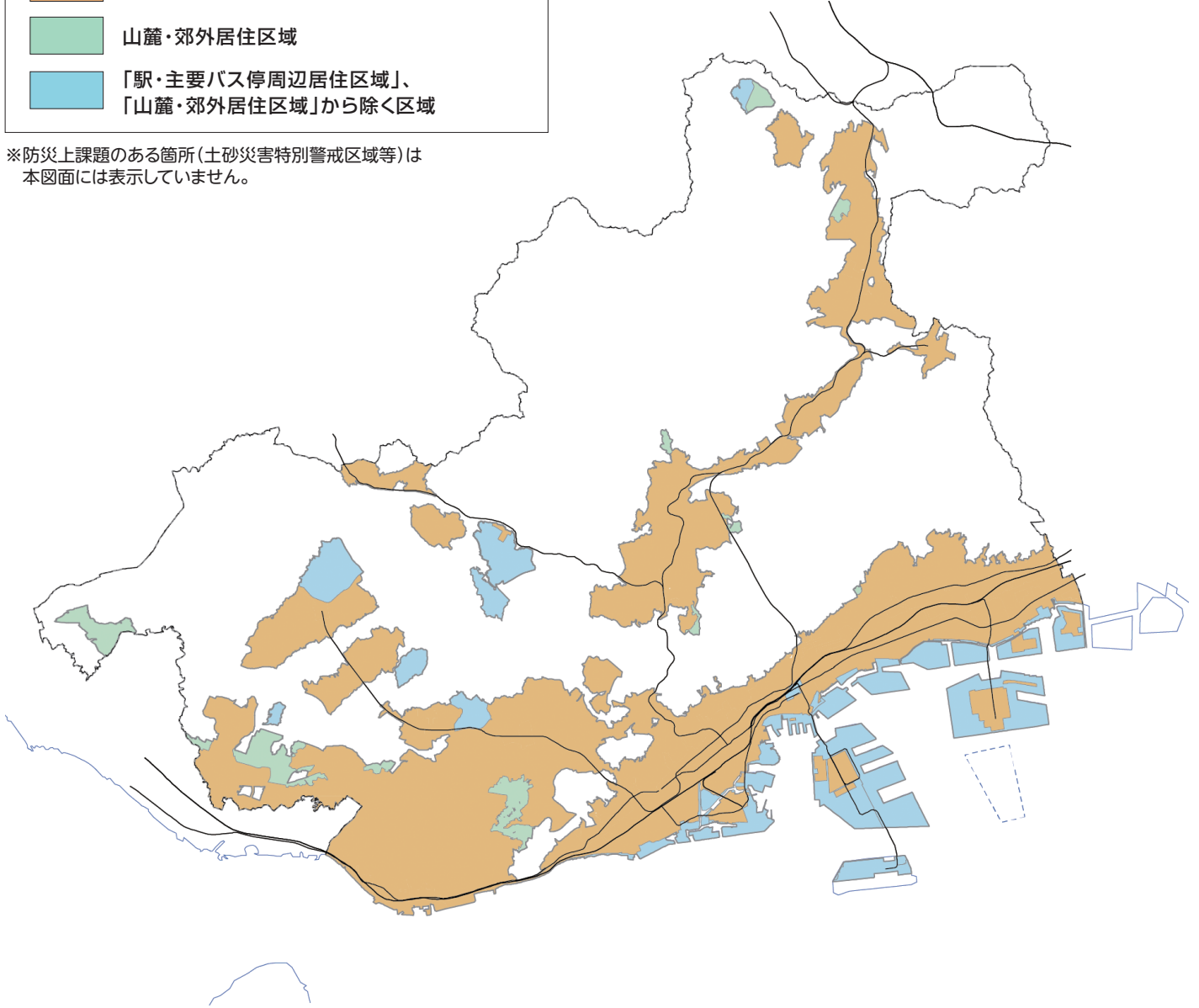


## ② 居住に関する区域

### 居住区域

-  駅・主要バス停周辺居住区域(居住誘導区域)
-  山麓・郊外居住区域
-  「駅・主要バス停周辺居住区域」、  
「山麓・郊外居住区域」から除く区域

※防災上課題のある箇所(土砂災害特別警戒区域等)は  
本図面には表示していません。



## 2 広域型都市機能誘導区域について

### 1 区域設定の考え方

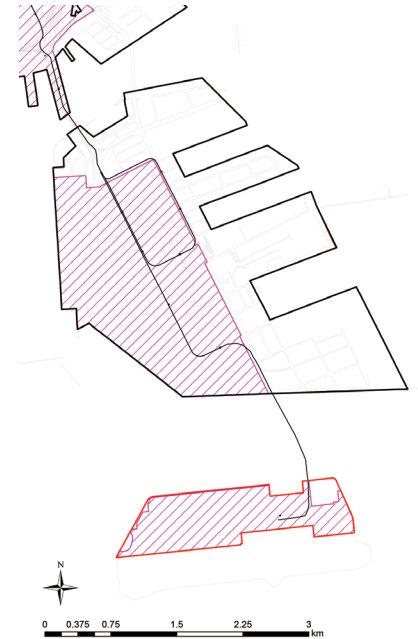
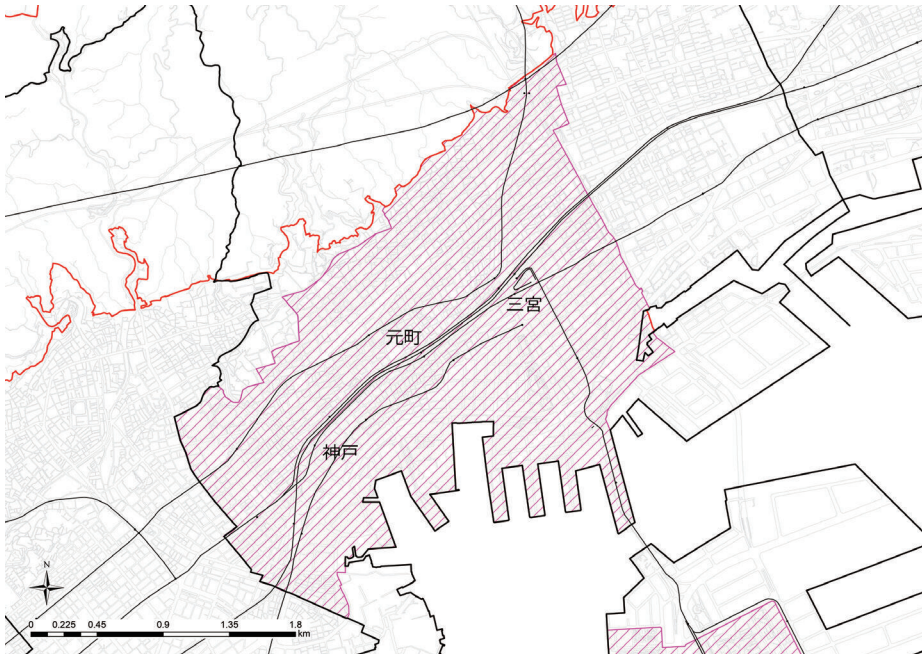
本マスタープランで位置づける拠点などに、広域型都市機能誘導区域を配置します。

#### 【広域型都市機能誘導区域の配置】

位置づけ		広域型 都市機能誘導区域
都心核	三宮駅周辺	都心
都心拠点	新神戸、元町、神戸周辺、神戸港 ポートアイランド、神戸空港島	
地域拠点	六甲山系南側の既成市街地	旧市街地型
	住吉、御影、六甲道、湊川、新開地、板宿、新長田周辺 六甲アイランド、鈴蘭台、名谷、学園都市、垂水、舞子 西神中央、岡場、谷上	郊外拠点型

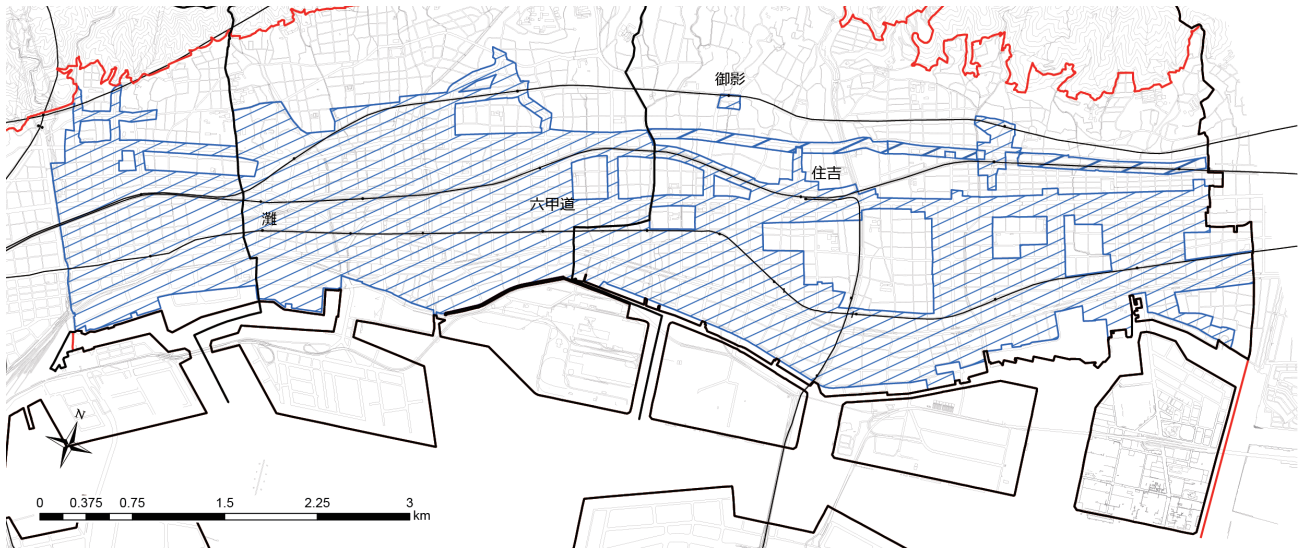
### 2 広域型都市機能誘導区域

#### 【都心： 】

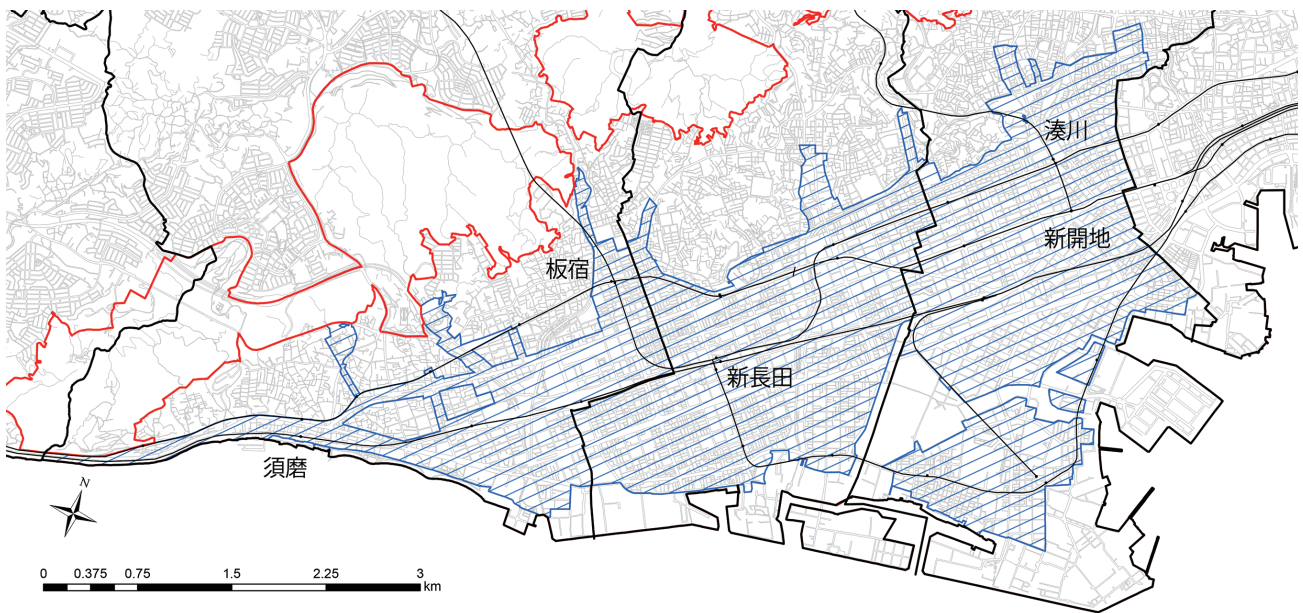


【旧市街地型：】

(東部)

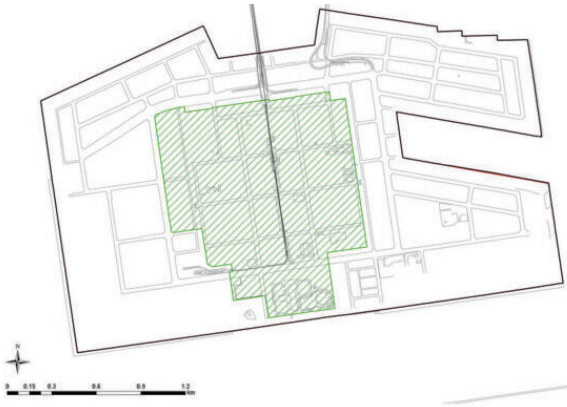


(西部)

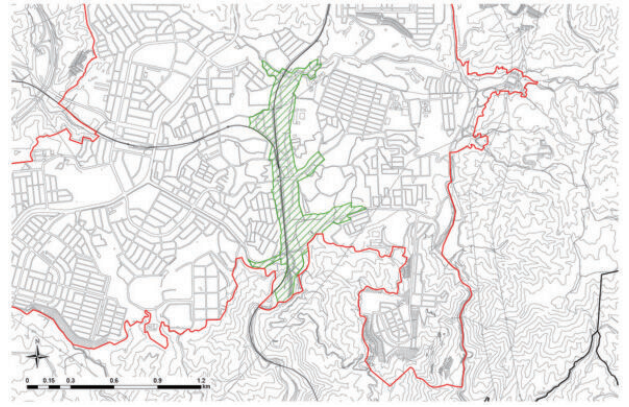


【郊外拠点型: 】

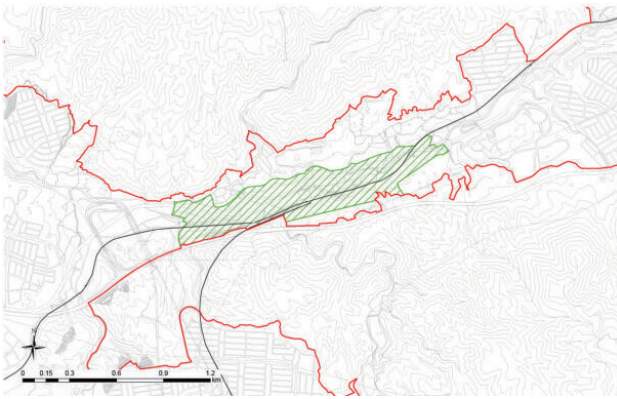
六甲アイランド



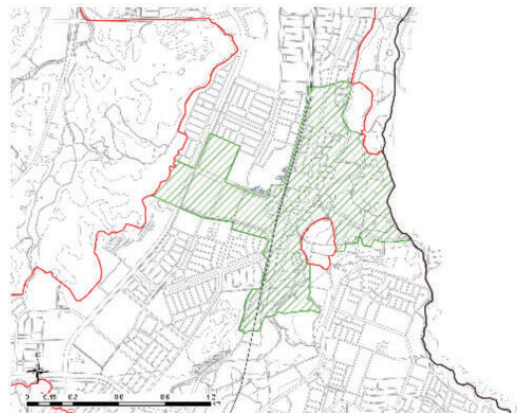
鈴蘭台



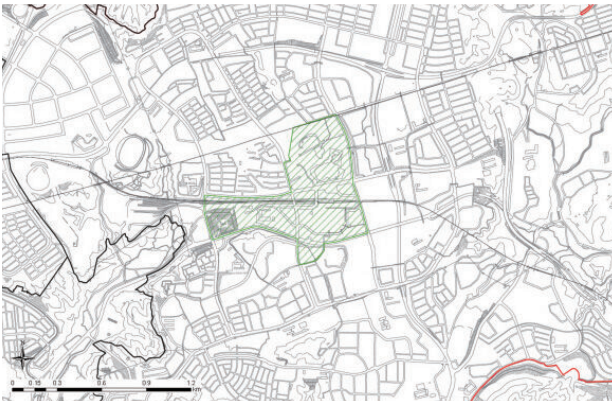
谷上



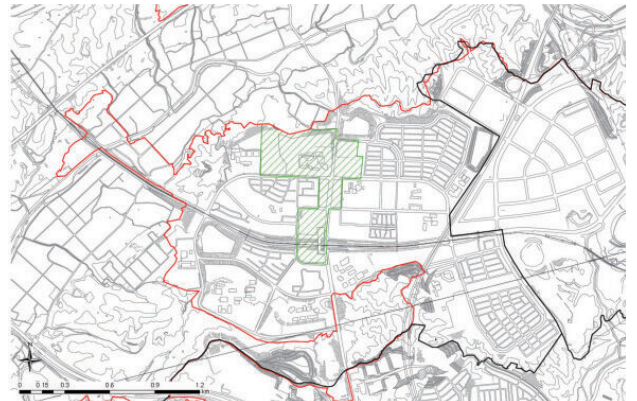
岡場



名谷



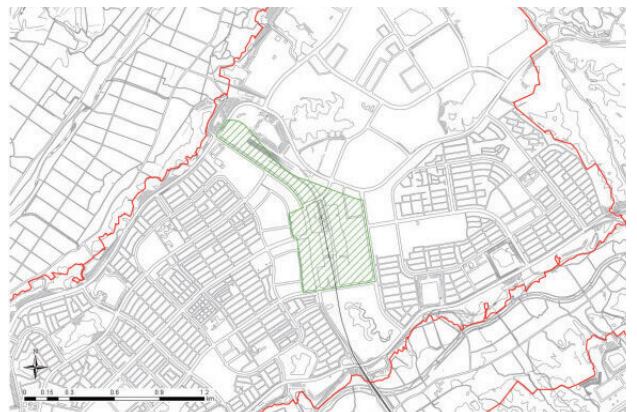
学園都市



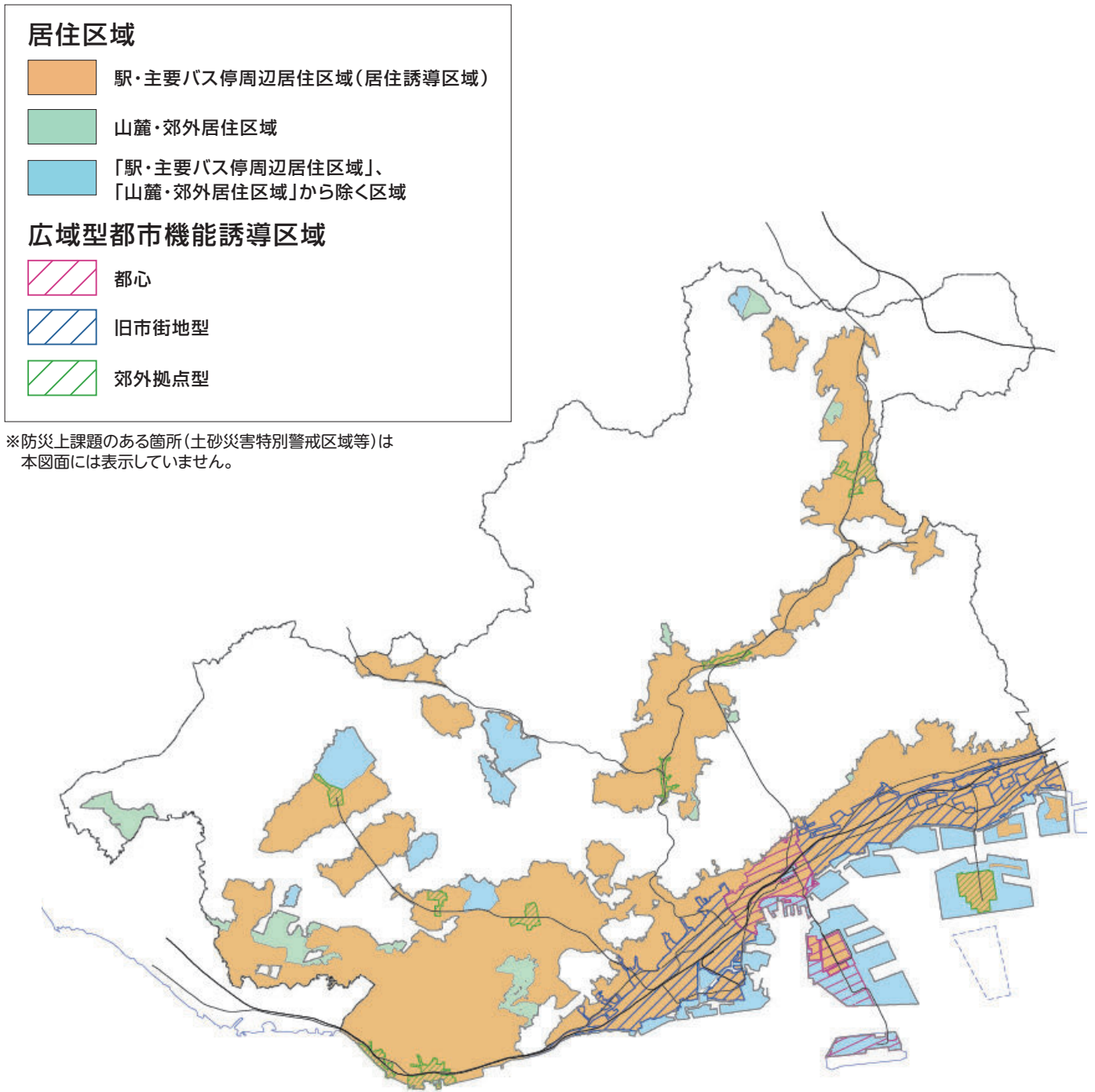
垂水・舞子



西神中央



### 3 都市機能および居住に関する区域図



## 4 居住・都市機能の方針に関連する評価・モニタリングについて

2020年に策定した「神戸市都市空間向上計画」において定めた評価指標やモニタリング指標については、当該計画が概ね50年先を見据えた視点で持続可能なまちの実現に向け策定したものであるため、今後も引き続き5年ごとを基本として検証・評価を行います。次期中間目標値は（2030年（令和12年））を設定します。

### 【評価指標】

#### ① コンパクト・プラス・ネットワークの推進

「歩いて暮らせるまちづくり」を進めるため、「アクセス機能の確保」「基幹公共交通の維持」を施策の柱としています。公共交通だけでなく、徒歩・自転車などの分担率を高めることで「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現が図られるため、自動車分担率を目標値とします。

指標	基準値	中間目標値
自動車分担率	2025年:25.4%	25.4%以下

#### ② 農村地域の活性化

「豊かな自然や農地に囲まれながらも都市的で便利な生活もできる神戸ならではの「里山暮らし」を進める」としており、「里山暮らし」の推進に関する「農村地域での農業参入・起業・移住数」を目標値とします。

指標	基準値	中間目標値
農村地域での 農業参入・起業・移住数	120件/年 (2020年～2024年平均)	120件以上/年

#### ③ 防災まちづくりの推進

「防災上課題のある箇所」は、長期的な視点で見ると、自然災害から市民の命を守る観点から、対策工事だけではなく安全な地域へ移転を促進していくべき箇所もあるとしており、対策工事や移転施策により「防災上課題のある箇所」から減少した人家の数を目標値とします。

指標	実績値	中間目標値
防災上課題ある箇所の 人家の減少数	2件 (2020～2024年累計)	1件以上/年

※なお、対策工事によるものは60件あります。(2020～2025年実績)

### 【モニタリング指標】

目標値と併せて、人口や都市交通、地域活動、生活サービスなどの動向をモニタリングしていきます。

- (例) ○ 人口密度  
○ 公共交通の利用状況  
○ 開発・住宅動向  
○ 生活に必要な身近な施設の立地状況